瑞浪市化石博物館研究報告 第 46 号, 57–102, 21 pls., 1 fig. Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, no. 46, 57–102, 21 pls., 1 fig. ©2020, Mizunami Fossil Museum Manuscript accepted on November 27, 2019; online published on March 13, 2020

江戸時代の貝化石図譜『閑窓録』の研究

松原尚志*•雲岡 梓**

*北海道教育大学教育学部釧路校地学研究室 〒085-8580 北海道釧路市城山 1-15-55 **京都産業大学文化学部京都文化学科 〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山

Study of the "Kansō-Roku", a fossil shell book in the Yedo Period

Takashi Matsubara* and Azusa Kumooka**

*Laboratory of Earth Sciences, Faculty of Education, Kushiro Campus,

Hokkaido University of Education, 1-15-55 Shiroyama, Kushiro 085-8580, Japan

<matsubara.takashi@k.hokkyodai.ac.jp>

* Department of Kyoto Culture, Faculty of Cultural Studies, Kyoto Sangyo University

** Department of Kyoto Culture, Faculty of Cultural Studies, Kyoto Sangyo University, Motoyama, Kamigamo, Kita-Ku, Kyoto 603-8555, Japan

Abstract

The "Kansō-Roku", written by KŌUN-DŌ Kanpo (pseudonym), is known as a sole woodcut fossil shell book in the Yedo Period. First, we reprinted the full-text and translated the major parts in modern language. Then, we studied this book from the view-points of paleontology and Japanese literature.

As the result of the present study, the following matters have been clarified:

- 1) The introduction by KIUCHI Sekitei was written at demand by request from a certain fossil enthusiast SHŌHŌ-DŌ Keizan of the Owari Prov.
- 2) The identity of Kanpo is TAKEUCHI Sōsuke (?–1816), a *haikai* poet and a headman of Matsubara Village in the Sanuki Prov.
- 3) 112 lots of specimens mainly from the Permian to Pleistocene formations are illustrated.
- 4) Donners of fossil specimens are considered to include members of the "*Rōseki-Sha*" hosted by Sekitei, Keizan's acquaintances, and Kanpo's friends.
- 5) The included poems are mostly written on bamboos and autumn.
- 6) There are only five common persons between fossil donners and poem writers.
- 7) The "Kansō-Roku" is a "chimera" book between an illustrated fossil shell book and a collection of poems.
- 8) The "Kansō-Roku" is probably a commemorative publication of Kanpo's receiving the privilege of wearing a pair of swords ("*Taitō-Gomen*") in 1804.

Key words: fossil shell book, history of natural history, "Kansō-Roku", KŌUN-DŌ Kanpo, poem, Yedo Period

はじめに

18 世紀中期の享保の改革以降, 長崎の出島を 拠点として西洋の書物や漢訳書が日本にもたらされ るようになった. これに伴い, 本草学や蘭学が武家 や医家にとどまらず, 商人や上級農民の間で盛んと なり、物産会や薬品会が大都市で開催されるように なった. さらに江戸時代後期初頭には, 実用性を重 視する蘭学や本草学の愛好者の中から、岩石や化 石, 考古遺物を収集・展示し, その趣を楽しむことに 主眼を置いた弄石社と呼ばれるグループが派生し た. 江州の木内小繁重暁(石亭; 1725-1808) は弄 石社の主宰者としてとくに著名であり、彼の著作で ある『雲根志』(木内, 1773, 1779, 1801)は, 京のみ ならず、大坂、名古屋、江戸でも重版されるほど好 評を博した(今井, 1969). また, 石亭のコレクション は、『東海道名所圖會 巻ノ二』(秋里編、1797)にお いては、名所の一つ「山田石亭」として図示・解説さ れている.

このような時代に出版された化石図譜の一つとし て, 耕雲堂灌圃による文化元年(1804年)刊行の 『閑窓録』(耕雲堂、1804a)がある. 本書は江戸時代 で唯一の刊行された貝化石図譜で(磯野, 1999, 2005), その存在は異体本の『貝石画譜』(耕雲堂、 1804b)とともに、地学史・博物学史において古くか ら知られていた. たとえば, 中村(1925)は江戸時代 に知られていた三重県の化石産地を紹介する中で, 『竹石二愛』として本書に触れた. 明治前日本科学 史刊行会(1960)は、「もっとも多くの動物化石を、あ る程度正確に図示し得たのは, 文化元年甲子刊の 耕雲堂灌圃の『介石図巻』(=『貝石画譜』)という小 冊である. 約九○種の貝化石を図説しているが, 例 えば、江州貝石というマルドブガイの化石の如きは、 「色黄ニシテ鉄気ヲ帯」と附記し、鉄分を含んだ粘土 層から出土したことをよく観察している」と評した. ま た, 年表では文化元年(1804年)に「耕雲堂灌圃、 『竹石二愛』一巻刻成る.介の化石の図説である」と 記されている.

古生物学者の間で灌圃の名を一躍有名にしたのは糸魚川・赤木(1978)である. 彼らは鳥取大学附属図書館所蔵の灌圃による『貝石画譜』の概要を紹介するとともに、描かれている貝化石の同定や産地・産出層の比定を行った. また、同定できた化石のいくつかについては図を複製・図示し、掲載されている化石の数や化石産地の概要を紹介している.

さらに、彼らは『国書総目録』に基づき、灌圃の著作に『介石録』、『化石奇異貝品画譜』、『閑窓録』、『貝石品図』があることを紹介した.

磯野(1999)は『閑窓録』と『貝石画譜』のそれぞれについて概要を述べるとともに、両者の内容の比較を行った. その結果、『貝石画譜』は『閑窓録』の序文や自跋、詩歌の帖、帖付および奥付を削除し、帖の順序を入れ替えた後刷本であることを明らかとした.

最近,国立国会図書館デジタルコレクション (http://dl.ndl.go.jp)において,『閑窓録』を含む江戸時代の貴重書のインターネット閲覧が可能となった.しかしながら,『閑窓録』を含む当時の書物には漢詩,俳諧,和歌などが楷書体,行書体,変体かな混じりの草書体などのさまざまな書体で掲載されているため,現代人が内容を読み解くことは極めて困難である.そこで,本稿でははじめに,『閑窓録』の全丁を翻刻するとともに,重要な部分について現代語訳を行った.つづいて,現代語訳の結果を踏まえ,作者の「耕雲堂灌圃」の実名と経歴について文献に基づき調査を行った.さらに,古生物学・国文学的観点から,本書に描かれている化石と収められている詩歌に関する分析を行い,最後に『閑窓録』の刊行の背景について考察を行った.

資料と方法

1. 書誌情報

本研究で用いた原典の書誌情報は以下のとおりである.

底本:国立国会図書館所蔵本・一巻一冊. 国立国 会図書館デジタルコレクション

(http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2534028).

外題:『閑窓録』.(題簽左肩).

内題:無.

寸法:16 cm.

装丁:和装.

丁数:41 丁.

行数:不規則.

成立:文化元年(1804)序.

編者:耕雲堂灌圃

序跋:児嶌至達・八十翁石亭(=木内重暁)・文雅堂 武陵の序, 耕雲堂灌圃の跋有り.

刊記:「京都室町一條下ル町/書林橘仙堂 平野 屋善兵衛梓」

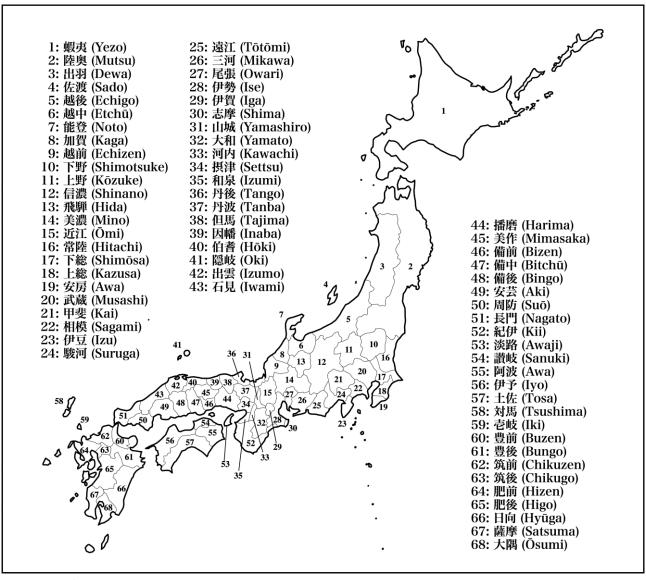


図1. 令制国の索引地図.

Fig. 1. Map showing provinces of Japan in the Yedo Period.

2. 翻刻と現代語訳

- 2-1. 翻刻に際しては、以下の事項を除き、原文の表記に従うことを原則とした.
 - イ. 漢字の旧字体や略字, 異体字は, 原則として そのままとした.
 - ロ. 底本の仮名遣はそのまま残した.
 - ハ. 反復記号「ゝ」、「~~」は底本のままとしたが、「 と 」は「々 」に改めた。
- 2-2. 簡書体・行書体は明朝体に、草書体は行書体に変換し、文字サイズ・文字数は原則として原文のままとした.
- 2-3. 図版は原典の文字方向と文字数,図のレイアウトを維持し、これに翻刻した文字を植字した.
- 2-4. 翻刻された各丁は、原典を開いた場合と同様 に、前丁裏を右に、後丁表を左として、これを 1 対として 1 つの図とし、1 図版あたり 2 つの図を

レイアウトした.

2-5. 漢詩の書き下し文は 1 つの序文のみを, 現代 語訳は, 3 つの序文, 自跋前の著者による歌, および自跋のみを対象とした.

3. 化石標本

- 3-1. 標本数については母岩に複数個体が含まれる標本や,同一産地の小型標本が複数個体描かれている場合があることも踏まえ,個体数ではなく,ロット数とした.
- 3-2. 産地については令制国(図 1)単位で集計した.
- 3-3. 図示標本の同定と産出層・地質時代の比定については図の特徴と示されている国名・地名を踏まえ、筆者の一人、松原の地質学・古生物学的知見に基づき行った. 同定結果については分類群あるいは種類(軟体動物門: 二枚貝

綱・掘足綱・腹足綱;棘皮動物門;生痕化石;植物化石;不明)ごとに集計を行った。産出層については層群または層単位で集計した。「産所不詳」,「産所不知」となっている標本,あるいは記述のない標本でも産地や産出層・地質時代が推定できるものについては集計用データに加えた。

- 3-4. 産出層の地質時代のうち、中・古生代については「紀」単位で、新生代については「世」単位で集計した. ただし、複数の地質時代にまたがる地層については地質時代の区分を「○○世~○○世」のように区分した.
- 3-5. 化石や画の提供者については『雲根志』(木内, 1773-1801;木内著・正宗編, 1930;中川編, 1936;今井, 1969),『日本先史學序説』(中谷, 1935),『名古屋市史 人物編』(名古屋市役所, 1934編),飯田市美術博物館編(2004),草津市教育委員会編(2005),宮澤(2005),今井(2012)などに基づき比定を行い,居住地については令制国単位で集計を行った.

4. 詩歌

- 4-1. 詩歌については種類(漢詩, 詞書, 和歌, 俳諧, 都々逸, その他)と歌題について集計を行った.
- 4-2. 序の執筆者ならびに詩歌の詠み手については 『讃岐人名辭書』(梶原監, 1928),『名古屋市 史 人物編』(名古屋市役所編, 1934),『香川 県俳諧史』(福家・松尾, 1950),『武陵來簡集』 (大谷編, 1976),『俳文学大辞典 普及版』(加 藤ほか監, 2008),『日本古典作者辞典』(川野, 2010),『讃岐人物の雅号 香川県人物の雅号』 (占部編, 2011),『俳諧集 左努幾婦利 井手 武陵編』(正木・占部編, 2018)などによって調 査し,居住地については令制国単位で集計し た.

翻刻と序跋および挿入文の現代語訳

全文の翻刻を図版 1~21 に示す.

序跋および挿入詩歌の現代語訳は以下のとおりである:

1. **児嶌至達による序**(一丁表~三丁表;図版 1 上 左図~図版 2 左上図) (書き下し文)

昇平二百を向かへ, 国家実に安然にして, 泰平の 化日々に行はる. 上王公・大人より下学士・大夫・黎 庶の民に至るまで、海内裴然として尽くさざる無く、 芸苑に優游し、風に向かひ、化に走る. 辞林に翱翔 する者は,或いは詩文,或いは書画を,礼に楽に剣 に鑓に, 或いは国風和歌連歌, 或いは滑稽俳諧歌, 至りて翫物の甚だしきは上古阿堵物, 古器, 珍器, 昆岡玉石, 合浦珠樹を, 貝に, 石に, 化石に, 化貝 に,怪々奇々,各の好む所の癖に随ひて,都下,寒 郷の隔て莫く,珍蔵するや漸く多し. 是誠に太平徳 化の致す所か. 予の友灌圃子也は所謂風流に富め るの人也. 頗る化石の癖有りて, 官袴の暇に四方の 同好の所に聚まり、贈遺するところの化石、之を探し、 之を閲し、其の数多々、枚挙に暇あらざる其の中に 最も奇異なる物と称する数品は梓に鐫りて,四方同 好の風士に贈らんと欲す. 自ら顧み独り楽しむは、 衆楽を興ずるの意にしかざらんや. 一日序を予に請 ふ. 予や敏からず. 何ぞ其の事に当たらん. 固辞す ること再三. 灌圃曰く, 強ちに辞すこと莫かれ. 文の 拙きとエみとを論ぜず, 平素年長の友為るを以て其 の事を足下に託すのみ、と. 予日はく、善哉の言や. 爰に其の意の広濶なるや、と. 因りて其の言を述べ、 以て之序と為す,と云々.

(現代語訳)

これまでの二百年間,世の中は穏やかに治まって いる. 国家は誠に安泰になった. 上は王公・大人よ り,下は学士・大夫・庶民に至るまで国中君子の徳 風に靡き尽くさない民草はなく, 芸術の園に遊び, 君子の風の吹く方向を向き、その教化の導く通りの 方向へ趨る. 言葉の林に思いのままに遊ぶ者は, あ るいは詩文,あるいは書画を,社会秩序を定める礼 において,人心を感化する楽において,武士の剣 術において, 鑓術において, あるいは国風の和歌 や連歌, あるいは滑稽な俳諧歌, 至って甚だしい翫 び物としては、上古の銭、古器、珍器、崑崙山の玉 石, 合浦の珠樹を, 貝に, 化石に, 化貝に, 怪奇とも いうべきものを,各々の好む所の癖にしたがって, 都のうち, 貧しくさびれた山里の隔て無く, 珍蔵する 人はしだいに多くなってきた. これは本当に太平の 御代の徳化のなせる所であろう. 私の友人の灌圃は いわゆる風流に富んだ人である. たいそう化石を好 む癖があって、役所勤めの暇に四方の同好の士の もとに集まり、贈り合うところの化石を探し、これを調 べている. その数は多く、枚挙に暇がない. その中 に最も奇異な物と自称する数品はその写しを版木

に彫って出版し、四方の同好の風流人士に贈ろうとしている。集めたものを自分だけで顧みて、一人で楽しむのは、多くの人たちが楽しむのを興じる面白さに及ばないからであろうか。先日、序を私に依頼してこられた。「私は賢くない。どうしてその事に当たることができようか」。固辞すること再三に及んだ。灌圃のいうことには、「そうかたく辞退なさるな。文章が下手か上手かは問題ではない。日頃から親しくする長年の友であるから、貴殿に託すというだけなのだ」と、私がいうには「何と良い言葉だろう。ここにその考えの広く寛容なことを知った」と。よってその序の言葉を記述し、もって序文とするということである。

文化甲子 季秋上旬 児嶌至達 書

2.「八十翁 石亭」による序(三丁裏~四丁裏;図版2右下図~図版3右上図)

(現代語訳)

貝殻を宝としていた昔に思いをめぐらせて貝石を集 め, 宝としておられる灌圃風子の風流な感性は素晴 らしい. ここに旧知の景山という人が諸君子から寄 贈を受けた貝石の図巻を持参して仰々しくやってき た. 開いて見たところ、その見事なことは言うまでも ない.この図巻のはしがきをを書くよう再三依頼され た. 「闇愚鈍才の自分はその書き方が分からない」と 断ったが、景山は「闇愚鈍才は知られているところな ので吹聴するに及ばない」、と言った. 私は、「その とおりだ.このような純筆にこの八十の老人は赦して 欲しい」、と言った. 景山は、「書を大切に思うので はなく、長寿でおられることこそが大切だ」、と曰った。 「翁が壮年ならば何の役に立つだろうか. 文藻の風 流を佳しとするのではない. 無念無想に書いていた だきたい」、と笑いながらこの巻を手渡された. つく づく思うに文筆の拙さは自分の恥であり主人の辱で はない. 「諸君子から嘲弄されることはむしろ興を催 すと云うではないか」、と我ながら腹をかかえて貝石 のことをかいがいしく書く次第である.

文化改元甲子秋九月 八十翁 石亭

3. 文雅堂武陵による序(七丁表;図版 4 左上図) (現代語訳)

耕雲堂主人は公務多忙な身でありながらも風流心をなくすことなく,浮世に半日の時間を得ては机上で妖しげな奇石を翫び,座前にある青々とした数株の呉竹を愛でている. ああ,もっともなことだ. 柳は

みどり、花はくれない、不変真如の尽きることのない 眺めが永く続くことだろう、と申した者は文雅堂武陵 であったようだ.

小田刈月の始めいつゝなる日 漫に筆を為てしかいふ

武陵

4. 耕雲堂灌圃による詩歌(三十九丁裏;図版 20 右下図)

(現代語訳)

尾州の松鳳堂に/端正な松の一木を/贈って以来, 里の人々はこれを/景山の松とさえ呼ぶようになっ たので,さらに/斧斤による間違いもなく/枝葉は 非常に栄えて並々/ならぬ縁となったのだ./ああ, 種も我も滅びた後にこそ/一層 趣を感じてもらえ るだろうか.

おもかげ

俤 や雲井幾代を夏の霜

灌圃

5. 自跋(四十丁表~四十丁裏;図版 21 左上図~右下図)

(現代語訳)

貝石求むとの文書を尾州の松鳳堂に預けてから遠 近同好の諸氏より贈与を受けた南山北岳の奇石,これらを箱に収めて一人で楽しむことは私の本意ではない.そこで,ここに版木に写して筑紫の誰,吾妻の某に送ろうと,南窓に寄りかかって筆をとってみたのだが,嵐にそよぐ竹の葉末への日頃から心引かれるこの愛情の妄念は払いがたく,ともに加えて竹石二愛の巻とした次第である.

文化甲子 玄月日 耕雲堂灌圃 識

耕雲堂灌圃とは誰か?

森(1937)は、「帝室博物館書目解題」の中で、『貝化石譜 一巻』[=貝石画譜]について、「無名ノ氏ノ序ニ「灌圃」ノ撰トナセリ氏ヲ知ラズ」と述べた.また、糸魚川・赤木(1978)は、実名は不明としながら、『貝石画譜』の序から、灌圃は役人であったと推定した.一方、日本地学史資料調査委員会(1979)は灌圃の著作の一つである『貝石画譜』の著者を「岩崎灌圃」とした.しかしながら、これは明らかに『本草図譜』の著者として名高い江戸の本草学者、岩崎灌園(1786-1842)との混同によるものである.

磯野(1999)は図示されている化石の所有・寄贈者の多くが近畿・四国・尾張の人であることから, 尾張以西の人物であると考えた. さらに磯野監(2005)は灌圃が上方の人物である可能性を指摘した.

以上のように、彼の実名を含む人物像について は不明なままである.

序文の一つを当時、「石之長者」として有名であった木内石亭が執筆し、しかも彼からの寄贈または所蔵標本が図示されていることから、一見すると灌圃は石亭と交流のあった弄石家だったように思われる。しかしながら、石亭による序から、石亭は彼の昔からの知人である尾張の"景山"(=松鳳堂)という人物からの依頼を受けて本書の序を執筆したことが分かる。

また、灌圃の旧友である児嶌至達による序文や自跋から、灌圃自身は自ら野外に化石採集に行くような収集家ではなく、弄石家の集まりに参加しては化石を見せてもらったり、譲渡しあったり、景山を介して贈与を受けた標本を箱に収めて楽しんでいた人物であったことが覗える。さらに、「灌圃」の名は、石亭の著作や彼の弄石仲間(=弄石社社中)であった服部未石亭、西遊寺鳳嶺や、同時代の信州飯田の文化人であった市岡智寛の資料にも見られない(斎藤、1962; 今井、1969; 飯田市美術博物館、2006 など). これらのことから、弄石家の間ではとくに知られた人物ではなかったことが推定できる.

一方, 図版 1~21 に示したとおり, 『閑窓録』には 貝化石の画に加え,多数の詩歌句が所収されてい る. これらの詠み手のうち、「武陵」は本書の序で灌 圃の人柄について述べたり,和歌に「竹によせて祝 のこゝろを詠る」との詞書を寄せていることから、灌圃 とは親しい人物であったと推定される. 本書には「文 雅堂武陵」,「井手武陵」,「丹波 武陵」の,のベ三 人の「武陵」による序、詩歌および貝化石の画が所 収されている. これらの「武陵」のうち、文雅堂武陵と 井手武陵は讃岐在住の同一人物で, 丹波 武陵と は別人であることがすでに木村(2006)によって明ら かとされているところである. しかしながら, 当初, 筆 者らはこれらの「武陵」が同一人物で、当時、著名で あった丹波の俳人, 西尾武陵であると考えた. そこ で, 西尾武陵の来簡をまとめた『武陵來簡集』(大谷 編, 1976)を検討した. その結果, 偶然にも『武陵來 簡集』所収の文化十一年頃~文政初年(1814~ 1818年)編纂の『名録帖』中に「灌圃」の名があり (大谷編, 1976, p. 450), 彼の実名は「竹内惣介」で, 讃州白鳥(現香川県東かがわ市白鳥)の人であった ことが判明した. さらに、同書に収められている『人

名録』中には「李上 讃州白鳥 竹内里之介 灌圃 <u>跡</u>」、「李上 東讃州白鳥 竹内理八」および「李上 讃州白鳥 竹内氏理八郎」が掲載されている。『人 名録』は文政 7年(1824年)夏以降の編纂とされて いるので(大谷編, 1976)、灌圃はこれ以前には没し ていたことが推定された。

以上の情報を手がかりに、『白鳥町史』(白鳥町 史編集委員会編, 1985)を調査した. その結果, 彼 の実名は竹内宗助で, 讃岐国白鳥松原村の大庄 屋で, かつ俳人であったことが明らかとなった.

『白鳥町史』所収の彼の事績(二川, 1985; 久詰, 1985)に『閑窓録』および『武陵來簡集』の内容も加えると, 彼の経歴は以下の通りまとめられる:

竹内灌圃 (生年不詳-1816). 幼名 村秀. 名は宗 助. 通称 長左右衛門. 堂号 耕雲堂. 俳号 連城 のち灌圃. 讃州大内郡白鳥松原村の竹内家本家 (通称 中竹)の 5 代当主竹内佐六(通称 与五郎) の三男として生まれ,のちに西の竹内家(通称 西 竹)初代当主となる.俳句にすぐれ、二人の兄、佐 六(中竹6代当主;俳号 化龍)および伊佐衛門(中 竹 7 代当主;俳号 有光)とともに,京の俳人,三宅 嘯山(1718-1801)の門人であった. また, 丹波の西 尾武陵, 能登の井田寒涯などの俳人との交流があ った. 寛政九年(1897年), 藩命により兄伊佐衛門 の後を継ぎ、白鳥の大庄屋となる。文化元年(1804) 年), 牢人株を貰い受け, 帯刀を許される. 同年9月, 竹石二愛の図譜『閑窓録』を刊行. 文化 8 年(1811 年) 功により, 高松城内において晒一反と金子千疋 を頂戴する. 文化9年(1812年)大庄屋勤務の御墨 附を頂戴する. 文化 11 年(1814 年)病身のため付 役御免. 文化 13 年(1816年)9月17日死去. 法名 賢勝院釋灌圃.

前述のとおり、「灌圃」の名は当時著名であった 弄石家の資料には見られない.一方、実名の「竹内 宗助」については『蒹葭堂日記』の安永九年(1780 年)三月廿四日に、「讃州白鳥村竹内長作有光 同 宗介連城 過訪」との記録(野間・水田、1972、p. 36) を見いだすことが出来た.この記録から、竹内宗助 (=灌圃)が兄の有光とともに木村蒹葭堂の元を訪れ ていたことが示される.また、「西遊寺鳳嶺関係古記 録」の一覧には、「(文化二カ)閏八月九日 木内宗 助書状(諸家奇石、図の写しなど作成につき)」とい う文書の存在が記されている(草津市教育委員会、 2005、p. 20).差出人の「木内宗助」が「竹内宗助」の 誤読または誤植だとすると、この文書は灌圃が『閑 窓録』または『貝石画譜』を西遊寺鳳嶺に謹呈した際の添え状である可能性がある.

以上のことから、灌圃は俳人との交流では俳号を、 弄石家を含むその他の人物との交流では実名の竹内 宗助を用いていたことが窺える。また、俳人との交流に おいても堂号の「耕雲堂」を用いていた形跡は見当た らない。これらの要因により、永らく、耕雲堂灌圃の実 名を特定することができなかったものと推定される。

「貝化石」の種類と産地・産出層

『閑窓録』には考古遺跡出土と推定される標本や画の写しを含め、合計 112 ロット(標本単位)の「貝化石」標本が図示されている. これらを分類群または化石の種類で見ると、二枚貝綱が最も多く(55 ロット)、次いで腹足綱(38 ロット)、頭足綱(アンモノイド類)(2 ロット)、掘足綱(1 ロット)の順となっている. また、軟体動物門以外では棘皮動物門・生痕化石がそれぞれ 2 ロット、甲殻類および珪化木 1 ロットが含まれている. このほか、分類群・種類不明の標本が 11 ロットあった.

また,化石産地について北は蝦夷(^鬼北海道)から南は日向(^鬼宮崎県)までの地域に及ぶが,美濃と土佐がそれぞれ 13 ロットと最も多く,次いで讃岐(8ロット),阿波(7ロット),信濃・伊勢(各6ロット),尾張(5ロット),越後・近江・紀伊(各4ロット),陸奥(3ロット),出羽・越中・伊豆・備中・肥後(各2ロット),蝦夷・下野・山城・志摩・丹後・豊後・日向(各1ロット)の順であった。また,産出国の記述がない,または特定ができなかった標本は22ロットと,全体の約2割を占めていた。

一方, 化石の産出層について見ると, 最も多いのは「土州鴻峯産六品」によって代表される土佐(^現高知県)の鮮新統~更新統唐ノ浜層群で13 ロット, 次いで美濃(^理岐阜県)の瑞浪層群と阿波(^理徳島県)・讃岐(^理香川県)の白 亜 系 和 泉 層 群 (10 ロット), 伊勢(^理三重県)の中新統一志層群(6 ロット), 美濃(^理岐阜県)のペルム系赤坂石灰岩, 紀伊(^理和歌山県)の中新統田辺層群, 近江(^理滋賀県)の鮮新統~更新統古琵琶湖層群(各 3 ロット)であった. その他の産出層としては, 中新統富草層群, 近江(^理滋賀県)の中新統鮎河層群, 備中(^理岡山県)の三畳系成羽層群, 阿波(^理徳島県)の白亜系物部川層群, 信濃(¹長野県)の富 草層 群, 伊豆(¹世間県)の鮮新統白浜層群および考古遺跡からそれぞれ2 ロット, 出羽(²山形県)の中新統古口層, 下野

(^鬼栃木県)の中新統鹿股沢層,越後(^鬼新潟県)の中新統須川層,越中(^鬼富山県)の更新統田川層,尾張(^鬼愛知県)の更新統野間層,同国の中新統師崎層群,丹後(^鬼京都府)の中新統北但層群または内浦層群,紀伊(^鬼和歌山県)の中新統熊野層群,阿波(^鬼徳島県)の三畳系寒谷層,日向(^鬼宮崎県)の中新統宮崎層群田野層,そして現生標本がそれぞれ1ロットであった。尚,産出層不明の標本は41ロットと,全体の約3割7分を占めていた。

化石の提供者とその居住地

検討の結果、『閑窓録』に描かれている化石標本は 70 名から提供を受けたもので、このうち、居住地が不明または提供者自体の記述のない 22 ロット分の提供者を除いた 48 名の在住地は 16 ヶ国であることが明らかとなった。また、4 つの寺院(栗田御殿[青蓮院門跡]、山城;金牛岡[安栄寺]、尾張;志度寺、讃岐;光西寺、豊後)の所蔵標本が描かれていることも判明した。

提供者の居住地は陸奥から豊後にまで及ぶが、 もっとも多いのは尾張の10名で、次いで阿波(8名)、 讃岐(7名)、美濃・近江・山城(京を含む)(各3名)、 武蔵(江戸を含む)・摂津(浪花を含む)・伊勢(各2 名)、陸奥・和泉・紀伊・備中・伊予・長門・豊後(各1 名)の順であった。

化石標本あるいは画の提供者のうち,名前や来 歴が判明したのは以下の14名である.

(五丁表)「石亭」:木内小繁重暁(1724-1808). 号は石亭, 芋掘房, 鳥礫. 生前より「石之長者」として著名であった近江の奇石収集家.

(六丁表)「自清道人」,(九丁裏)・(三十八丁表)「笹倉自清」: 笹倉清兵衛(生没年不詳). 号は自清. 越後の弄石家. 木内石亭, 西遊寺鳳嶺などの弄石家との交流があった.

(八丁裏)「谷水」: 日野邦泰(生年不詳-1813). 号は谷水. 豊後国湯布院の医家.

(十二丁表)「西遊寺」: 西遊寺鳳嶺 (1763-1819). 近江国草津木ノ川の高樹山西遊寺の住職. 木内石 亭が認めた弄石の後継者. 彼のコレクションは現在 でも西遊寺に保存されている.

(十七丁表)「井手武陵」:(生年不詳-1807). 堂号は文雅堂. 讃岐国大内郡白鳥松原村の俳人.

(十七丁裏)「六車氏」: 六車謙篤(生年不詳-1833). 名は久敬. 通称 謙篤, 号は杏隠. 高松藩表医師. (十八丁裏)「文雅堂」: 井手武陵に同じ. (十九丁表)「雲生堂」:春叢(1751-1839). 名は紹殊. 堂号は雲生堂. 阿波国慈光寺の画僧. のちに妙心寺四七○世.

(十九丁裏)「金牛岡」: 尾張国東志賀村(^現名古屋市北区志賀町)の安栄寺に建てられている弄石家,志賀の源吉(生没年不詳,享保年間)を顕彰した碑.ここでは彼ゆかりの標本が所蔵されている安栄寺のことであろう.

(二十二丁表)「雲根堂」: 谷理九郎(または陸郎) (1735-1817). 美濃国赤坂の弄石家. 堂号は雲根堂,鏃石亭. 子息の鼎とともに,石亭と交流があった. (二十二丁裏),(三十二丁裏)「舜民」: 脇田源吾(生年不詳-1819). 通称堺屋源吾. 号は舜民. 讃州志度の名陶工. 平賀源内の甥.

(二十三丁裏)「好清菴」: 竹内佐六(?1746-1787)または竹内有光(生年不詳-1806). 佐六は白鳥松原村の竹内家本家(通称:中竹)六代で, 灌圃の長兄. 俳号は化龍, 庵号は好晴庵. 有光は灌圃の次兄で,白鳥松原村の大庄屋の中竹七代. 通称 伊左衛門. 庵号は好晴庵(二世). 『閑窓録』の刊行年から, おそらく後者である可能性が高い.

(三十二丁表)「水野白鴎」:水野守俊(1754-1818). 号は白鷗. 通称 水野金兵衛. 尾張名古屋藩士. 好事家.

(三十七丁表)「金谷」: 横井金谷(1761-1832). 近江の画僧.

(三十七丁表)「春岱」: 小宮山友張 (生年不詳-1809). 号は天老, 春岱子. 尾張名古屋の医家.

このほか、灌圃と弄石家との仲介を行った尾張の「松鳳堂」(=「景山」)の標本は、十五丁裏、二十五丁裏、三十七丁に掲載されている。彼については石亭が序で「旧識景山てふ人」と述べていることや、「鳳嶺の諸石収集記録『諸石記(控)』『諸石集記』」に「尾州景山子」の名が見えることから(草津市教育委員会編、2005、p. 44)、尾張の弄石家であることは確かであるが、実名等については不明である。

以上のように、標本・画の提供者のうち、特定のできた人物は主に、近江、越後、美濃在住の弄石社の社中、尾張在住のおそらく松鳳堂景山の知人、および、灌圃の知人と推定される讃岐・阿波在住の人物であることが分かる。これらのうち、弄石社社中や尾張の人物からの標本や画は、石亭の序や灌圃の跋から、景山に託した「貝石求むとの文書」に応じて寄贈された可能性が高い。

詩歌句の種類と歌題

『閑窓録』には序と灌圃による詞書・俳諧(三十九丁裏;図版 20 右下図)と跋を除き,40 の詞歌句と2 枚の画が所収されている.これらの種類を見ると,俳諧が28と最も多く,続いて漢詩が9,和歌が3,画が2,都々逸が1であった.

また, 詩歌句の題については竹が 20 と最も多く, 秋が 12, 夏が 3 で, 貝や化石, 石に関連するものは 画を含め, わずか 4 であった.

一見すると, 詩歌句は貝化石の画と関係している ように思われるが, 以上のように, 詩歌句の題は, 化 石の画とはほとんど無関係であることが明らかとなっ た.

詩歌句および画の作者とその居住地

上記の『閑窓録』所収の詩歌句および画は 41 の 詠み手・画家によるもので、居住地は陸奥国相馬から南は筑前国筑紫にまで及ぶが、最も多いのは讃 岐で7、続いて山城(京を含む)の6、伊勢の5、摂津 (浪花を含む)・尾張各3の順で、その他、12ヶ国の 居住者が各1であった。

これらのうち、実名や来歴が判明した詠み手は以下の17名である:

(七丁裏)「中川長官 荒木田如雪」: 荒木田経雅 (1742-1805). 別名 中川経雅. 伊勢の国学者・神 官. 伊勢神宮内宮三禰宜. 従三位.

(十三丁表)「朱樹士朗」: 井上士朗 (1742-1812). 号は朱樹叟, 朱樹老人. 名は正春. 尾張守山の医家・俳人.

(十三丁裏)「七十翁 伯章」: 横井時文(生没年不詳). 号は伯章. 尾張名古屋藩士で儒家.

(十三丁裏)「有光」: 竹内有光(生年不詳-1806). 讃州白鳥松原村の俳人. 灌圃の次兄. 上記の「好 清菴」を参照のこと.

(十六丁裏)「竹堂寧」:紀 竹堂(生没年不詳).名は寧.京の画家.

(十六丁裏)「丹波 武陵」: 西尾武陵(1766-1838). 丹波国大山上村の商人・俳人. 名は邦直. 通称 呉四郎. (二十一丁表)「従四位上 貞度」: 檜垣貞度(1784-1831). 別名 度会貞度. 国学者. のち従三位. 伊勢神宮外宮権禰宜.

(二十四丁裏)「哥媒」: 菊下庵歌蝶(生没年不詳). 別名 菊雫庵霞潮. 京の俳人.

(二十八丁表)「武陵」: 井手武陵, 前述の通り.

(二十八丁表)「阿彦」: 植松阿彦(1769-1837). 通称 加賀屋五兵衛. 信濃国松本の米穀商・俳人.

(二十八丁表)「雪哉」:森田雪哉(生没年不詳). 摂 津国伊丹の俳人. アカシ[明石, 播磨国]は誤りか.

(三十二丁表)「寒厓」:井田寒涯(1743-1810). 名は一蔵. 通称 七右衛門. 能登国小木真脇村の商人・俳人.

(三十二丁裏)「従三位 源具選」: 岩倉具選(1757–1824). 公卿. 詩歌人. 篆刻家. 号は可汲.

(三十五丁表)「六車謙得」: 六車謙篤. 上述のとおり.

(三十九丁表)「吐鳥」:島 方淑(1735-1806). 高松藩士. 号は孤閑堂.

(三十九丁表)「大江丸」: 安井大江丸 (1722-1805). 名は政胤. 通称 大和屋善右衛門, 嶋屋善右衛門. 大坂の飛脚問屋大和屋の主人. 俳人.

(三十九丁表)「児紫芝」: 児島紫芝(生年不詳-1798). 讃岐三本松村の俳人.

このほか、二十四丁表の竹画に「玉潾」とあるのは京の画僧、玉潾正邃 (1754-1814)であると推定される. ただし、この画には落款がないので、画の写しである可能性がある.

また、本書の序を執筆し、漢詩を寄せている児嶌 至達については、灌圃の古くからの友人であること が序の記述から明らかである。本書三十九丁表(図版20左上図)に漢詩を寄せている児紫芝[=讃州三 本松村の児島紫芝、1798年没]は同苗字であるが、 至達が本書の序を執筆した日付は「文化甲子季秋 上旬」(文化元年[1804年]秋上旬)(図版2左上図) であることから、同一人物ではないと考えられる。し かしながら、灌圃の旧友であること、および漢詩を嗜 んでいることから、至達は儒家または医家で、讃岐 国大川郡三本松村の児島氏の一族である可能性 が考えられる。

以上のように、本書の詩歌句および画の作者には公卿や伊勢神宮の神職のような貴人も含まれるが、江戸時代後期の初めに著名であった京(山城国)・大坂(摂津国)・尾張・能登・丹波の俳人・画家と、灌圃の地元である讃岐の俳人が含まれている. これらのほとんどは詩歌句を通じて灌圃と交流のあった人物であると推定される.

考察

1. 貝化石の画と詩歌との関係について

化石標本や画の寄贈者と詩歌句および画の作者 とを比較すると、どちらにも名が見えるのは序の一 つを執筆している近江山田村の木内石亭を除けば、 讃岐の文雅堂武陵(井手武陵)、尾張の水野白鴎 (水野氏)、陸奥相馬の呑海、高松藩表医師の六車 謙篤(六車氏), そして灌圃の兄である竹内有光(好清菴)の5名しかいない.

また、詩歌句や画には上記のとおり、貝や貝化石、石を歌題とするものは少なく、多くは竹と秋を詠んだものである。

これらのことから、化石の寄贈者と詩歌句・画の作者の大部分は、別の交流グループに属していたものと考えられる.

2. 閑窓録の構成と刊行のいきさつについて

従来、『閑窓録』は博物学史的観点から貝化石図譜として扱われてきたが(磯野、1999、2005)、実態は灌圃自身が自跋で「竹石二愛の巻」と述べているように、貝化石図譜に灌圃撰による詩歌句を挿入した「異質同体」本となっている。

このような構成の書となったことについて、灌圃は 自跋において、寄贈された全国各地の奇石を一人 で楽しむのではなく、版木に彫って全国各地の寄 贈者に送ろうと思い筆をとったところ、日頃、愛でて いる竹の葉への愛情の妄念もはらうことが出来なか ったため、これらに関する詩歌句も加えて、「竹石二 愛の巻」とした旨、述べている。

本書の貝化石図譜の部については序を木内石亭に景山を通じて依頼していることからも、灌圃が石亭の『雲根志』の影響を受けていることは明らかである。また、本書の序の一つを執筆している文雅堂武陵による俳諧・画集の『左努幾婦利』が、『閑窓録』と同じ京の書林橘仙堂から寛政十年(1798年)に刊行されたこと(正木・占部編,2018)も、灌圃に影響を及ぼしている可能性がある。

一方、本書において、従四位貞度[檜垣貞度]は和歌に「いさゝか祝のことの葉ををくる」(二十丁裏; 図版 11 右上図)との詞書を、また、武陵も和歌に、「竹によせて祝いのこゝろを詠る」(二十八丁表; 図版 14 左下図)との詞書を添えている。これらのことから、彼らによる和歌は灌圃の何らかの慶事への祝いの歌として贈られたものであることが分かる。 灌圃の経歴を鑑みると、彼は本書が出版された文化元年(1804 年)に牢人株を取得したことにより帯刀を許される栄誉に預かっている。したがって、本書はこの栄誉を記念した出版物であるのかもしれない。

おわりに

本論文では、『閑窓録』について、古生物学と国文学という、二つの異なる分野の観点から研究を行い、 これまで未解明であった著者の「耕雲堂灌圃」の実名 や経歴に加え、化石標本や詩歌句の詳細および、それらの関係について明らかとすることができた.

耕雲堂灌圃の化石標本は, 西竹(西の竹内家)が初代の宗助(=灌圃)より二代後の宗三郎(生年不詳-1882)の代で断絶し, また, その後, 西竹を継いだ丹波国氷上(^鬼兵庫県丹波市)出身の大西徳三も, 明治四十五年(1912年)に海運業に失敗して香川県大川郡松原村を退去しているため(久詰, 1985), 現在では散逸してしまったものと考えられる.

一方,『閑窓録』に描かれている貝化石標本は, 図版に示したとおり,分類学的に重要な形質をよく 捉えて描かれており,また,多くの標本に寄贈者・所 蔵先や産地などの標本データも記されている.この ため,標本自体は現存していないものの,大阪市立 自然史博物館所蔵の木村蒹葭堂の資料(大阪市立 自然史博物館編,1982,2004;大阪歴史博物館編, 2003)や,滋賀県草津市木川町の西遊寺所蔵の西 遊寺鳳嶺の資料(草津市教育委員会編,2005),長 野県飯田市の市岡家の資料(飯田市美術博物館編, 2004),およびオランダ王国国立ナチュラリス生物多 様性センターのシーボルトコレクション(Sasaki and Matsubara,2010)などに含まれる実物の化石標本と 同様に,日本の博物学史上,重要な資料であると 言えよう.

謝辞

本稿の執筆にあたり、香川県東かがわ市在住の正木英生氏・占部日出明博士には讃岐の俳人・雅人に関する貴重な資料を提供いただいた。名古屋大学糸魚川淳二名誉教授ならびに日本大学文理学部の矢島道子博士には原稿を校閲いただき、建設的なご意見をいただいた。徳島県立博物館の中尾賢一博士には、徳島県立図書館所蔵の灌圃著『貝石品図』ならびに阿波国の化石産地・産出層に関するご教示をいただいた。岡山県立博物館の内池英樹氏には同館所蔵未公開資料中の竹内宗助に関する記述について情報をいただいた。以上の方々に篤く御礼申し上げる。

引用文献

- 秋里籬島(編). 1797. 東海道名所圖會. 巻ノ二. 小林新兵衛. 東都. 82 p.
- 福家惣衛·松尾明徳. 1950. 香川県俳諧史:宗鑑翁 四百年忌記念出版. 至善園. 観音寺. 210 p.

- 二川正徳, 1985. 俳壇. In 白鳥町史編集委員会 (編), 白鳥町史. 白鳥町. p. 1116-1155.
- 飯田市美術博物館(編). 2004. 江戸時代の好奇心 -信州飯田・市岡家の本草学と多彩な教養-. 飯 田市美術博物館. 飯田. 124 p.
- 今井 功. 1969. 雲根志解説. In 木内石亭(著)·今 井 功(訳註解説), 雲根志. 築地書館. 東京. p. 527-582.
- 今井正之助. 2012. 妙音院師長「琵琶島伝説」考. 日本文化論叢 20: 15-59.
- 磯野直秀. 1999. 日本博物学史覚え書-VII. 慶應 義塾大学日吉紀要 自然科学 26: 98-116.
- 磯野直秀(監). 2005. 描かれた動物・植物-江戸時代の博物誌-. 国立国会図書館特別展示. 国立国会図書館・現京. 105 p.
- 糸魚川淳二・赤木三郎. 1978. 貝石画譜 −江戸時 代の化石図鑑-. 瑞浪市化石博物館研究報告 5: 183-185, pl. 21.
- 糸魚川淳二・渡辺俊典. 1976. 瑞浪層群の研究史. その 1. 明治以前の記録. 瑞浪市化石博物館研 究報告 3: 205-212.
- 梶原竹軒(監). 1928. 讃岐人名辭書. 高松製版. 高松. [2] +50+15+970 p.
- 加藤楸邨·大谷篤三·井本農一(監). 2008. 俳文学 大辞典. 普及版. 角川学芸出版. 東京. 1200 p.
- 川野正博. 2010. 日本古典作者辞典. http://manyoubito.sakura.ne.jp/home02/S1mokuji.htm
- 木村篤秀. 2006. 武陵の時代. 東かがわ市歴史民 俗資料館だより 21:6-7.
- 木内小繁重暁. 1773. 湖上石話 雲根志. 前編. 齋藤庄兵衛, 京都/前川六左衛門, 江戸/髙橋平助. 大坂. 巻之一:2+1+1+16 fo., 巻之二:2+27 fo., 巻之三:2+22 fo., 巻之四:1+15 fo., 巻之五:1+16 p.
- 木内小繁重暁. 1779. 湖上石話 雲根志. 後編. 大坂書林 髙橋平助. 大坂. 巻之一:2+37 fo., 巻之二:1+33 fo., 巻之三:2+42 fo., 巻の四:1+19 fo.
- 木内小繁重暁. 1801. 諸國石話 雲根志. 三編. 浪 花書肆 伊丹屋善兵衛. 浪花. 巻之一:1+1+9 fo., 巻之二:1+21 fo., 巻之三:2+24 fo., 巻之 四:1+13 fo., 巻之五:1+15 fo., 巻之六:2+25 +2 fo.
- 木内重暁(著)·正宗敦夫(編). 1930. 雲根志. 日本 古典全集刊行会. 東京. 上巻: p. 1-211, 下巻: p. 213-436+[1-4]+1-3.

- 耕雲堂灌圃(編). 1804a. 閑窓録. 書林橘仙堂 平野屋善兵衛. 京都. 41 fo.
- 耕雲堂灌圃(編). 1804b. 貝石画譜. [書林橘仙堂平野屋善兵衛. 京都]. 25 fo.
- 草津市教育委員会(編). 2005. 木内石亭(西遊寺鳳嶺·願行寺了観)関係資料調査報告書(草津市文化財調査報告書) 59: 88 p.
- 久詰忠明. 1985. 竹内家. In 白鳥町史編集委員会 (編), 白鳥町史. 白鳥町. p. 1265–1271.
- 正木英生・占部日出明(編・註). 2018. 俳諧集 左 努幾婦利 井手武陵編. 占部日出明. 東かがわ. [7] +122+[3]p.
- 明治前日本科学誌刊行会(編). 1960. 明治前日本生物学史. 第一巻. 日本学術振興会. 東京. 674+12 p.
- 宮澤恒之. 2005. 「市岡家の考古資料」補遺-資料 集成のあり方を見返しながら-. 飯田市美術博物 館研究紀要 15: 197-209.
- 名古屋市役所(編). 1934. 名古屋市史 人物編第二. 川瀬書店. 名古屋. 22+622+22 p.
- 中川泉三(編). 1936. 石之長者 木内石亭全集. 下郷共濟會. 長濱. 巻一:3+7+2+91 p.; 巻二: 3+104 p., 巻三:130 p., 巻四:7+150 p., 巻五: 7+131 p., 巻六:3+2+130 p.
- 中村新太郎. 1925. 日本化石産地表. (一)三重縣.

- 地球 4: 447-451.
- 日本地学史資料調査委員会. 1979. 明治前日本地学文献集. 地学雑誌 88:58-72.
- 野間光辰(監)·水田紀久(編). 1972. 蒹葭堂日記翻刻編. 中尾松泉堂書店. 大阪. 766 p.
- 大谷篤蔵(編). 1976. 武陵來簡集. 西尾精一. 丹南. 503 p.
- 大阪市立自然史博物館(編). 1982. 木村蒹葭堂貝石標本-江戸時代中期の博物コレクション-. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 14: 1-69.
- 大阪市立自然史博物館編. 2004. 木村蒹葭堂貝石標本. 江戸時代中期の博物コレクション. http://www.mus-nh.city.osaka.jp/collection/kenkado/index.html
- 大阪歴史博物館(編). 2003. 木村蒹葭堂-なにわ 知の巨人-. 思文閣. 京都. 220 p.
- 斎藤 忠 1962. 木内石亭. 吉川弘文堂. 東京. 9 + 265 p.
- Sasaki, T. and T. Matsubara. 2010. Fossil collection of Philipp Franz von Siebold: General characteristics and remarks on molluscan specimens. The University Museum, The University of Tokyo, Bulletin 45: 213–247.
- 白鳥町史編集委員会(編). 1985. 白鳥町史. 白鳥町. 1681 p. [20 pls.]
- 占部日出明(編). 2011. 讃岐人物の雅号. 香川県 人物の雅号. 占部日出明. 東かがわ. 143 p.
- 山下欣二. 1995. 甲殻類の歴史分類学(7) 萬脚類. 海洋と生物 17: 33-40.

Appendix 1. 主な人名の読み

荒木田如雪(あらきだ じょせつ ARAKIDA Josetsu)井田寒涯(いだ かんがい IDA Kangai)井手武陵(いで ぶりょう IDE Buryō)

(=文雅堂武陵(ぶんがどう ぶりょう BUNGA-DŌ Buryō))

岩 倉 具 選 (いわくら ともかず IWAKURA Tomokazu)

服部未石亭(はっとり みせきてい HATTORI Misekitei)

市岡智寛(いちおか ともひろ ICHIOKA Tomohiro) 岩崎灌園(いわさき かんえん IWASAKI Kan'en) 檜垣貞度(ひがき さだのり HIGAKI Sadanori) 木村蒹葭堂(きむら けんかどう KIMURA Kenkadō)

木内小繁重暁(きうち こはん しげあき KIUCHI Kohan Shigeaki)

(=木内石亭(きうち せきてい KIUCHI Sekitei)) 児島紫芝(こじま しし KOJIMA Shishi) 児嶌至達(こじま したつ KOJIMA Shitatsu) 好清庵[好晴庵](こうせいあん KŌSEI-AN)

(=(竹内左六(たけうち さろく TAKEUCHI Saroku)(=化龍 Karyū/Karyō) or 竹内有光(たけうち ありみつ TAKEUCHI Arimitsu))

耕雲堂灌圃(こううんどう かんぽ KŌUN-DŌ Kanpo)

(=竹内宗助(たけうち そうすけ TAKEUCHI Sōsuke))

水野白鴎(みずの はくおう MIZUNO Hakuō) 六 車 謙 篤 (むぐるま けんとく MUGURUMA Kentoku)

西尾武陵(にしお ぶりょう NISHIO Buryō) 大西徳三(おおにし とくぞう ŌNISHI Tokuzō) 西遊寺鳳嶺(さいゆうじ ほうれい SAIYŪJI Hōrei) 笹倉自清(ささくら じせい SASAKURA Jisei) 松鳳堂景山(しょうほうどう けいざん SHŌHŌ-DŌ Keizan)

朱樹士朗(しゅじゅ しろう SHUJU Shirō)
(=井上士朗 INOUE Shirō)
舜民(しゅんみん Shunmin)
雲根堂(うんこんどう UNKON-DŌ)
(=谷 理九郎(たに りくろう TANI Rikurō))
雲生堂(うんせいどう UNSEI-DŌ)

Appendix 2. 主な文献の読み

『貝石画譜』(ばいせきがふ Baiseki-Ga-Fu) 『武陵來簡集』(ぶりょうらいかんしゅう Buryō Raikan-Shū)

『人名録』(じんめいろく Jinmei-Roku) 『閑窓録』(かんそうろく Kansō-Roku) 『蒹葭堂日記』(けんかどうにっき Kenkadō Nikki) 『名録帖』(めいろくちょう Meiroku-Chō) 『左努幾婦利』(さぬきふり Sanukifuri) 『白鳥町史』(しろとりちょうし Shirotori-chō-Shi) 『雲根誌』(うんこんし Unkon-Shi)

図版 1~21. 翻刻版『閑窓録』

Plates 1-21. "Kansō-Roku", reprint edition

Abbreviations

fo.: folio. F: front. B: back.

UR: upper-right. UL: upper-left.LR: lower-right. LL: lower-left.

Prov.: Province.

図版説明

Explanation of Plates

図版 1. 『閑窓録』(表紙;一丁表~二丁表).

上図右:表紙.

上図左(一丁表)~下図左(二丁表):児嶌至達の序(つづく).

Plate 1. "Kansō-Roku" (binding and fo. 1F-fo. 2F).

UR: Binding.

UL (fo. 1F)-LL (fo. 2F): Introduction written by KOJIMA Shitatsu, an old friend of Kanpo (to be continued to fo. 2B).

図版 2. 『閑窓録』(二丁裏~四丁表).

上図右(二丁裏)~上図左(三丁表):児嶌至達の序(つづき).

下図右(三丁裏)~下図左(四丁表):八十翁石亭[=木内小繁重暁/木内石亭]の序(つづく).

Plate 2. "Kansō-Roku" (fo. 2B-fo. 4F).

UR (fo. 2B)–UL (fo. 3F): Introduction written by KOJIMA Shitatsu (continued).

LR (fo. 2B)–LL (fo. 4F): Introduction written by "Sekitei, the 80-year-old man" [=KIUCHI Kohan Shigeaki/KIUCHI Sekitei] (to be continued to fo. 4B). Sekitei is known as a distinguished stone-collecting maniac of the Ōmi Prov.

図版 3. 『閑窓録』(四丁裏~六丁表).

上図右(四丁裏):石亭の序(つづき).

上図左(五丁表):貝化石の図版. 石亭採集の蛑化石. 本標本は Sinanodonta sp. に同定され, 産地から鮮新統~更新統古琵琶湖層群から産したものであると推定される.

下図右(五丁裏):貝化石の図版. 上図の尾州[=尾張国]早川氏採集標本の3 点のうち, 左側の1 標本は同定困難であるが, 右側2 点は Turritella sp. と同定できる. 下図の百谷庵による「含英介石」は江戸時代の化石産地として名高い越後国の横住川産の標本であるが, 貝化石かどうか判断できない. 産出層はおそらく中新統須川層である.

下図左(六丁表):貝化石の図版. 上図の自清道人[=笹倉自清]による越後クヒキ[頸城]産の標本は Serripes sp. に同定できる. 下図の山﨑氏採集による勢州[=伊勢国]産の標本は Periploma mitsugnoense Shibata, 1970 ミツガノリュウグウハゴロモガイに同定でき, 中新統一志層群産のものであると考えられる.

Plate 3. "Kansō-Roku" (fo. 4B-fo. 6F).

UR (fo. 4B): Introduction written by Sekitei (continued).

UL (fo. 5F): Plate of fossil shell. A fossil "Hō" [a pond mussel] from Jinbo-mura, Kōgadani, Ōmi Prov., donated from Sekitei.

- LR (fo. 5B): Upper: Fossil gastropods donated from Mr. HAYAKAWA of Bishū [=Owari Prov.]. Their localities are not noted. Two highly turreted gastropods can be identified as *Turritella* sp. Lower: "A crystalbearing shell stone from the Yokozumigawa River in the Echigo Prov." donated from HYAKKOKU-AN [or HYAKUYA-AN] of Gōshū [=Ōmi Prov.].
- LL (fo. 6F): Upper: A fossil bivalve from Kubiki, Echigo Prov. donated from Jisei-dōjin [=SASAKURA Jisei] of the same prov. It can be identified as *Serripes* sp. Lower: A fossil bivalve from Seishū [=Ise Prov.] donated from Mr. YAMASAKI. It has remarks "The stone is hard; valves are opened and separated in left and right; with a luster." This specimen can be identified as *Periploma mitsuganoense* (Shibata, 1970), and is considered to be from the Miocene Ichishi Group.

図版 4. 『閑窓録』(六丁裏~八丁表).

上図右(六丁裏): 貝化石の図版. 上図の土州[土佐国]産の標本は Securella chitanii (Yokoyama, 1926) チタニビノスガイに同定でき, 産出層は鮮新統~更新統唐ノ浜層群であると推定される. 下図の阿州[=阿波国]の大伏氏による産地不詳の「筆貝化石」もおそらく唐ノ浜層群産で, リュウグウボタル科の標本であると推定される.

上図左(七丁表): 文雅堂武陵による序と和歌.

下図右(七丁裏):竹画を添えた中川長官 荒木田如雪[荒木田経雅]による俳諧.

下図左(八丁表): 貝化石の図版. 播州[=播磨国]の荻野氏による貝化石. 上図の月吉産の腹足類は「月のおさがり」として知られる中新統瑞浪層群産の *Vicarya yokoyamai* Takeyama, 1933 ヨコヤマビカリアの内型である(糸魚川・渡辺, 1976; 糸魚川・赤木, 1978). 下図の伊豆国熱海産の二枚貝類は *Glycymeris* sp. に同定でき, おそらく鮮新統白浜層群から産したものであると推定される.

Plate 4. "Kansō-Roku" (fo. 6B-fo. 8F).

- **UR** (fo. 6B): Fossil shells donated from Mr. ŌFUSHI of Ashū [=Awa Prov.]. Upper: A fossil shell from Doshū [=Tosa Prov.], with remarks "The stone is black and the shell is white; contrasted and beautiful". Lower: A fossil *Fude-gai*. Its locality is unknown, but it is probably an ancillariid gastropod from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group.
- UL (fo. 7F): Introduction by BUNGA-DŌ Buryō [=IDE Buryō], a friend of Kanpo and a *haikai* poet of the Sanuki Prov.
- LR (fo. 7B): Haikai by ARAKIDA Josetsu [=ARAKIDA Tsunemasa] of the Ise Prov., with an illustration of bamboos.
- **LL** (fo. 8F): Fossil shells donated from Mr. OGINO of Banshū [=Harima Prov.]. Upper: A fossil gastropod from Tsukiyoshi [in Mino Prov.]. This is an inner mold of *Vicarya yokoyamai* Takeyama, 1933, which is called "*Tsuki-no-Osagari*" meaning droppings of the moon (Itoigawa and Watanabe, 1976; Itoigawa and Akagi, 1978). Lower: Fossil bivalves from Atami, Izu Prov. These two specimens are identified as *Glycymeris* sp. and may be from the Pliocene Shirahama Group.

図版 5. 『閑窓録』(八丁裏~十丁表).

- 上図右(八丁裏):貝化石の図版.上図の豊後湯布院の谷水[=日野邦泰]による九州天草[肥後国]産の二枚貝類は白亜系または古第三系から産したものと推定されるが,同定は困難である.下図の山田[讃岐国]の林氏採集による勢州[=伊勢国]産の二枚貝類は中新統一志層群産の標本であると推定される.
- 上図左(九丁表):貝化石の図版. 上図は「土州[=土佐国]鴻峯産六品」の内の一つとされる標本で, 鮮新統一更新統唐ノ浜層群産のエゾバイ科の腹足類である. 下図の橋本氏による田鶴川[立川]産の二枚貝類は白亜系物部川層群産のもので, Hayamina sp. に同定できる.
- 下図右(九丁裏): 貝化石の図版. 上図の「鴻峯産六品之内」は鮮新-更新統唐ノ浜層群産のもので、 Murex noboriensis Aoki and Baba, 1984 ノボリホネガイに同定できる.
- 下図左(十丁表): 貝化石の図版. 上図の山田[讃岐国]の林氏による「勢州貝石」は中新統一志層群産の標本であると推定される. 下図の尾州[=尾張国]の代山による「尾州東浦次佐邑産」の標本は堆積岩中の方解石脈であろう.

Plate 5. "Kansō-Roku" (fo. 8B-fo. 10F).

- **UR** (fo. 8B): Fossil shells donated from Kokusui [=HINO Yasukuni] of Yufuin, Bungo Prov. Upper: A fossil bivalve from Amakusa [in Higo Prov.], Kyūshū. Lower: A fossil bivalve from Seishū [=Ise Prov.] donated from Mr. HAYASHI of Yamada [in Sanuki Prov.]. This specimen is probably from the Miocene Ichishi Group.
- **UL** (fo. 9F): Upper: A fossil gastropod from Doshū [=Tosa Prov.] with remarks "This is one of six rarities originally collected by a certain person "Takizō" who visited Kōnomine, Doshū [=Tosa Prov.]". This specimen is a buccinid collected from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group. Lower: A fossil bivalve from Tazukawa in Ashū [=Awa Prov.] donated from Mr. HASHIMOTO. This specimen can be identified as *Hayamina* sp. and is considered to be from the Cretaceous Monobegawa Group.

- **LR** (fo. 9B): Plate of fossil shells. Upper: "One of six rarities from Kōnomine" [in Tosa Prov.]. It has remarks "White-colored; the shell form is very distinct". This specimen is from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group and can be identified as *Murex noboriensis* Aoki and Baba, 1984. Lower: A fossil "*Mate-gai*" [a razor clam] from the Echigo Prov., donated from SASAKURA Jisei [=SASAKURA Seibee] of the Echigo Prov.
- LL (fo. 10F): Plate of fossil shells. Upper: Fossil shells from Seishū [=Ise Prov.] donated from Mr. HAYASHI in Yamada [in Sanuki Prov.]. It has remarks "Black-coloured; with a luster". This specimen is considered to be from the Miocene Ichishi Group. Lower: Fossil shell (?) from Jisa-mura, Higashiura in Bishū [=Owari Prov.] donated from Daizan in the same province. It has remarks: "The stone is exquisite and fine; the shell is white; joints are distinct". This is probably a calcite crystal in a sedimentary rock.

図版 6. 『閑窓録』(十丁裏~十二丁表).

- 上図右(十丁裏):野邨活人の漢詩と江都 [=江戸]の女流俳人 敬太による俳諧.
- 上図左(十一丁表):貝化石の図版.上図の「鴻峯産六品之内」は殻表の失われた二枚貝で, Acila sp. に同定できる.産出層は鮮新統~更新統唐ノ浜層群である.下図の倚松亭による産地不詳の二枚貝類は同定困難である.
- 下図右(十一丁裏): 貝化石の図版. 上図の高枩[高松, 讃岐国]のうるしや専介採集による奈利和[=成羽] 産の貝化石は三畳系成羽層群産の Monotis sp. である. 下図の通念嶌[通念島, 讃岐国]産の二枚貝は白亜系和泉層群産の Nanonavis sp. である.
- 下図左(十二丁表):上図の江州木ノ川の西遊寺[鳳嶺]による標本は鮮新統〜更新統古琵琶湖層群産のイシガイ科二枚貝類である. 下図の守屋氏採集の日向カリヤ[仮屋]産の標本は二枚貝類であることは確かであるが,同定は困難である. 尚,産出層は中新統宮崎層群田野層であると推定される.

Plate 6. "Kansō-Roku" (fo. 10B-fo. 12F).

- **UR** (fo. 10B): *Kanshi* by NOMURA Katsujin and *haikai* by Keita (female) in Kōto [=Yedo in Musashi Prov.]. **UL** (fo. 11F)–**LL** (fo. 12F): Plates of fossil shells.
- **UL** (fo. 11F): Upper: A fossil shell, one of six rarities from Kōnomine, with remarks "White portion with bright-ness, like jade". This specimen can be identified as *Acila* sp. Lower: A fossil shell donated from KISHŌ-TEI, of which precise locality is unknown.
- **LR** (fo. 11B): A fossil shells donated from Sensuke the lacquerer of Takamatsu [in Sanuki Prov.]. Upper: A fossil bivalve from Nariwa, Bitchū Prov. It is *Monotis* sp. from the Triassic Nariwa Group. Lower: A fossil bivalve from Tsūnenjima Island in the Sanuki Prov. This specimen is identified as *Nanonavis* sp. and was from the Creaceous Izumi Group. It has remarks "The shell is thick and very hard; changed into a black stone".
- LL (fo. 12F): Upper: A fossil shell from Kinokawa River, Gōshū [=Ōmi Prov.], donated from SAIYŪJI [=SAI-YŪJI hōrei], an old friend of Sekitei. This specimen is an unionid bivalve and is considered to be from the Pliocene–Pleistocene Kobiwako Group. Lower: A fossil shell from Kariya, Hyūga Prov., donated from Mr. MORIYA. It was probably obtained from the Miocene Tano Formation of the Miyazaki Group.

図版 7. 『閑窓録』(十二丁裏~十四丁表).

- 上図右(十二丁裏): 貝化石の図版. 上図の尾州[=尾張国]の柏葉齊による木曽産の牡蠣化石は珪化木である可能性が高い(糸魚川・赤木, 1978). 下図の藤木氏による蝦夷産の「角貝化石」はその名の通り, 掘足類の標本である.
- 上図左(十三丁表):朱樹士朗[井上士朗]の俳諧とむさし[武蔵国]の東狂の都々逸.
- 下図右(十三丁裏):七十翁 伯章[横井伯章]の漢詩と有光[竹内有光], 不及, 孤菜の俳諧.
- 下図左(十四丁表):貝化石の図版. 上図の越中産の標本は二枚貝類の内型である. 下図のタシマ[但馬国]の黒﨑氏による丹州[=丹後国]幾野産の二枚貝類は Panopea tyugokuensis (Otuka, 1941) チュウゴクナミガイに同定され, 中新統北但層群または内浦層群から産したものと推定される.

Plate 7. "Kansō-Roku" (fo. 12B-fo. 14F).

- UR (fo. 12B): Plate of fossil shells. Upper: An "oyster fossil" from Kiso [in Shinano Prov.] donated from HAKUYŌ-SAI in Bishū [=Owari Prov.]. This specimen is probably a petrified wood (Itoigawa and Akagi, 1978). Lower: A fossil tusk shell from Yezo, donated from Mr. FUJIKI; with remarks "White-colored and hard; very beautiful".
- UL (fo. 13F): *Haikai* and *dodoitsu* poems. Right: *Haikai* by SHUJU Shirō [=INOUE Shirō], a famous doctor and *haikai* poet of the Owari Prov. Left: *Dodoitsu* by Tōkyō in Musashi Prov.
- **LR** (fo. 13B): *Kanshi* and *haikais*. Right: *Kanshi* by "Hakushō, the 70-year-old man" [=YOKOI Hakushō of Owari Prov.]; Central and left: *Haikais* written by Arimitsu [=TAKEUCHI Arimitsu], Fukyū and Kosai.
- LL (fo. 14F): Plate of fossil shells donated by Mr. KUROSAKI of the Tajima Prov. Upper: A fossil shell from Etchū Prov. with remarks "A half of shell is black; the stone is very hard". Lower: A fossil shell from Ikuno, Tanshū [=Tango Prov.], with remarks "White-coloured; grooves are deep; the shell is lustrous". This specimen can be identified as *Panopea tyugokuensis* (Otuka, 1941), and is considered to be obtained from the Miocene Hokutan Group or Uchiura Group.

図版 8. 『閑窓録』(十四丁裏~十六丁表).

- 上図右(十四丁裏): 貝化石の図版. 上図の徳嶌[徳島, 阿波国]の岡氏による阿州[=阿波国]産の標本は *Tosapecten* sp. に同定でき,産出層は三畳系寒谷層であると推定される. 下図の倚松亭による産地不知の標本は同定困難である.
- 上図左(十五丁表): 貝化石の図版. 上図の摂州[=摂津国]の三浦氏による産所不詳の腹足類は *Turritella* sp. に同定できる. 下図の廣瀬如橘による小海川産の 2 標本は白亜系和泉層群から産したと 推定される二枚貝類であるが, いずれも同定困難である.
- 下図右(十五丁裏): 貝化石の図版. いずれも枩鳳堂[松鳳堂景山]による. 上図の濃州[美濃国]月吉産の腹足類は中新統瑞浪層群のアクキガイ類である. 中・下図の信州[=信濃国]下条産の標本は中新統富草層群産のものであると推定される.
- 下図左(十五丁表): 奥州[=陸奥国] 相馬宇田中村の呑海の和歌と貝化石の図. 古歌「陸奥の宇田の尾浜の片背貝/合はせても見む/伊勢の爪白」の本歌取りである. いずれも二枚貝類の化石であるが, 同定ならびに産出層の特定は困難である.

Plate 8. "Kansō-Roku" (fo. 14B-fo. 16F).

- **UR** (fo. 14B): Fossil shells donated from Mr. OKA of Tokushima [in Awa Prov.]. Upper: Fossil bivalves from Ashū [=Awa Prov.]. The fossil bivalves can be identified as *Tosapecten* sp., and is considered to be from the Triassic Sabutani Formation. They have remarks "The stone is black; the shell forms are impressed and overlapped". Lower: Fossil shells, of which precise locality is unknown.
- **UL** (fo. 15F): Upper: A fossil shell donated from Mr. MIURA of Sesshū [=Settsu Prov.], of which precise locality is unknown. Lower: Fossil shells from O'umi-gawa, donated from HIROSE Jokitsu. This specimen is considered to have occurred from the Cretaceous Izumi Group.
- LR (fo. 15B): Fossil shells donated from SHŌHŌ-DŌ [=SHŌHŌ-DŌ Keizan of Owari Prov.], a common friend of Sekitei and Kanpo. Upper: A fossil shell from Tsukiyoshi, Nōshū [=Mino Prov.]. Middle and lower: Fossil shells from Shimojō, Shinshū [=Shinano Prov.]. These specimens are considered to be obtained from the Miocene Tomikusa Group.
- **LL** (fo. 16F): Illustrations of fossil shells with *waka* by Donkai in Nakamura, Uda-gun, Sōma, Ōshū [=Mutsu Prov.]. Lower right: *Dobu-gai* (pond clam) fossil; lower left: *Katase-gai* [univalve] fossil.

図版 9. 『閑窓録』(十六丁裏~十八丁表).

上図右(十六丁裏): 竹堂寧[紀 竹堂]の漢詩と正五位秋雪, 駿州[駿河国]の蓼冨, 丹波の武陵[西尾武陵]の俳諧.

- 上図左(十七丁表): 貝化石の図版. 上図の井手武陵による産所不詳の腹足類は Harpago chiragra (Linnaeus, 1758) スイジガイに同定され、おそらく古墳からの出土品であると推定される.
- **下図右**(十七丁裏): 貝化石の図版. イヨ[伊予国]の中野氏による産所不詳の標本はタカラガイ類に同定される. 下図の六車氏[六車謙篤]による紀州[=紀伊国]産の標本は中新統田辺層群から産したもので, *Turritella (Turritella) kiiensis* Yokoyama, 1924 ["1923"] キノクニキリガイダマシと *Solidicorbula peregrina* (Yokoyama, 1924 ["1923"]) シラハマクチベニが含まれている.
- 下図左(十八丁表):上図の髙(?)の山本氏による「尾州[=尾張国]産奇化石」には複数の標本が含まれているのが見て取れるが、同定は困難である.下図の橋本氏による阿州田鶴川[=阿波国立川]産の標本は白亜系物部川層群から産した腹足類の断面である.

Plate 9. "Kansō-Roku" (fo. 16B-fo. 18F).

- UR (fo. 16B): Kanshi and haikais. Right: Kanshi by Chikudō Yasushi [=KI-no-Chikudō of Kyōto]; Middle to left: Haikais by Shūsetsu of the Senior Fifth Rank, Shinfu of Sunshū [=Suruga Prov.] and Buryō [=NISHIO Buryō] of Tanba Prov.
- **UL** (fo. 17F): Plate of fossil shells donated from IDE Buryō. Upper: A gastropod specimen, of which precise locality is unknown. This gastropod can be identified as the Recent *Harpago chiragra* (Linnaeus, 1758), and is probably derived from an ancient tomb. Lower: Fossil shell from Matsushima [in Sanuki Prov.], with remarks "There is a stone like a seed between opened shell; very hard; with a luster".
- LR (fo. 17B): Upper: Fossil shells donated from Mr. NAKANO of Iyo Prov., of which precise locality is unknown. This specimen is a cypraeid gastropod. Lower: Fossil shells from Kishū [=Kii Prov.] donated from Mr. MUGURUMA [=MUGURUMA Kentoku], an official doctor of Takamatsu Domain, Sanuki Prov.; with remarks "The stone is grey in colour, and the form of shells is distinct". It is from the Miocene Tanabe Group and includes *Turritella* (*Turritella*) kiiensis Yokoyama, 1924 ["1923"] and *Solidicorbula* peregrina (Yokoyama, 1924 ["1923"]).
- LL (fo. 18F): Upper: A strange shell stone from Bishū [=Owari Prov.], donated from Mr. YAMAMOTO of Taka [or Kō]. Lower: A fossil shell from Tazukawa donated from Mr. HASHIMOTO. This specimen is considered to have occurred from the Cretaceous Monobegawa Group.

図版 10. 『閑窓録』(十八丁裏~二十丁表).

- 上図右(十八丁裏): 貝化石の図版. 上図の文雅堂[武陵]による土州[=土佐国]産の貝化石は唐ノ浜層群産の Anadara (Tosarca) tosaensis Noda, 1975 トササルボウに同定できる. 下図の松鳳堂[景山]による御嶽産の小型の腹足類はいずれも内型で,同定は困難であるが,中新統瑞浪層群産のものであると推定される.
- 上図左(十九丁表): 貝化石の図版. 上図の讃州[=讃岐国]の曲鈴舘による「宇治産鞨貝化石」は中新統綴喜層群から産した二枚貝類である. 糸魚川・赤木(1978)は本種を Nipponomarcia nakamurai (Ikebe, 1941) ナカムラスダレハマグリに同定した. 下図の雲生堂による鳴門産の化石は白亜系和泉層群産のアンモノイド類である.
- 下図右(十九丁裏):貝化石の図版. 上図の七条氏による阿州中林邑産の標本は腹足類であるが,同定できない. 下図の尾州[=尾張国]大野産の金牛岡[志賀の源吉]の標本は中新統師崎層群産のヒトデ類で, おそらく金牛岡の碑のある安栄寺の所蔵標本であると考えられる.
- 下図左(二十丁表):貝化石の図版.上図は阿州[=阿波国]の渚圭堂による同国楠根邑産の二枚貝類 2 点.左側の標本はイノセラムス類で、いずれも白亜系和泉層群産のものであろう.下図の尾州[=尾張国] の白葉堂による2標本は腹足類(左)と二枚貝類(右)であるが、いずれも同定困難である.

Plate 10. "Kansō-Roku" (fo. 18B-fo. 20F).

UR (fo. 18B): Upper: A fossil shell from Doshū [=Tosa Prov.] donated from BUNGA-DŌ [Buryō]; with remarks "The stone is hard, grooves are deep; the shell form is the most beautiful". This specimen can be identified as *Anadara* (*Tosarca*) *tosaensis* Noda, 1965. This specimen is considered to be from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group. Lower: Fossil gastropods from Mitake [in Mino Prov.] donated from SHŌHŌ-DŌ [Keizan]. They are considered to be from the Miocene Mizunami Group.

- UL (fo. 19F): upper: *Chō-gai* fossils from Uji [in Yamashiro Prov.] donated from KYOKUREI-KAN of Nōshū [=Mino Prov.]; with remarks "The stone is soft, but is very beautiful". This specimen is from the Miocene Tsuzuki Group. Itoigawa and Akagi (1978) identified these bivalves as *Nipponomarcia nakamurai* (Ikebe, 1941). Lower: A fossil shells from Naruto, Ashū [=Awa Prov.] donated from UNSEI-DŌ [=SHUNSŌ Jōju] of the same prov.; with remarks "The stone is smooth, and is the most strange". This specimen is an ammonoid from the Cretaceous Izumi Group.
- LR (fo. 19B): Upper: Fossil shells from Nakabayashi-mura in Ashū [=Awa Prov.] donated from Mr. SHICHIJŌ. Lower: A fossil "shell" [starfish] from Ōno, Bishū [=Owari Prov.] housed at the Kingyūgō [=An'eiji Temple] in the same prov.
- LL (fo. 20F): Upper: Fossil shells from Kusune-mura in Ashū [=Awa Prov.] donated from SHOKEI-DŌ of the same prov. Lower: A gastropod (upper) and bivalve (lower) donated from HAKUYŌ-DŌ of Bishū [=Owari Prov.]. Their locality is not noted.

図版 11. 『閑窓録』(二十丁裏~二十二丁表).

- 上図右(二十丁裏): 従四位上 貞度[檜垣貞度]の詞書・和歌と尾陽[尾張国]の観魚亭による漢詩. 漢詩は明 汪砢玉 撰『欽定四庫全書 珊瑚綱巻四十』所収の観畊臺の「看石忽有詩扳蕉書其上夜来打葉 驚聞金石響」を本文とする.
- 上図左(二十一丁表): 貝化石の図版. 上図の浪花中沢氏採集による御嶽産二枚貝類は中新統瑞浪層群から産したものと推定される. 下図の「鴻峯産六品の内」は鮮新統~更新統唐ノ浜層群から産した Clementia vatheleti Mabille, 1901 カミブスマガイに同定される.
- 下図右(二十一丁裏): 貝化石の図版. 泉州キシノワタ[=和泉国岸和田]の木村氏提供の腹足類化石 2 点. 上図の木曽産腹足類はおそらくエゾバイ科の一種, 下図の「産所不詳」とされる標本は Tugurium exutum (Reeve, 1842) キヌガサガイに同定され, 産出層は鮮新統~更新統唐ノ浜層群であると推定される.
- 下図左(二十二丁表):貝化石の図版.上図の洛[=京都]の菱田氏の出羽産腹足類はおそらく出羽の羽黒山参拝の際に入手したもので、中新統古口層産の Ancistrolepis mogamiensis (Nomura and Zinbô, 1937) モガミバイである可能性がある.下図の濃州[=美濃国]の雲根堂[=谷 理九郎(または陸郎)、鏃石亭] による金生山産の腹足類はペルム系赤坂石灰岩から産したものである.

Plate 11. "Kansō-Roku" (fo. 20B-fo. 22F).

- **UR** (fo. 20B): Right: *Waka* with *kotobagaki* by Sadanori [=HIGAKI [or WATARAI] Sadanori], the Junior Fourth Rank, Upper Grade. Left: *Kanshi* by KANGYO-TEI in Biyō [in Owari Prov.].
- **UL** (fo. 21F): Upper: A fossil shell from Mitake [in Mino Prov.] donated from Mr. NAKAZAWA of Naniwa [in Settsu Prov.]; with remarks "Stone is hard, just like if it was painted by white powder; black portion is occasionally with luster, and is very beautiful". Lower: "One of six rarities from Kōnomine". This specimen occured from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group and can be identified as *Clementia vathleti* Mabille, 1901.
- **LR** (fo. 21B): Fossil shells donated by Mr. KIMURA of Kishinowada, Senshū [=Izumi Prov.]. Upper: A fossil shell from Kiso [in Shinano Prov.]. Lower: A fossil shell of which locality is unknown. This specimen can be identified as *Tugurium exutum* (Reeve, 1842). It is probably from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group.
- LL (fo. 22F): Upper: A fossil gastropod from Dewa Prov. donated from Mr. HISHIDA of Raku [=Kyōto, Yamashiro Prov.]. This specimen may be a buccinid *Ancistrolepis mogamiensis* (Nomura and Zinbô, 1937) from the Miocene Furukuchi Formation. Lower: Fossil shell from Mt. Kanabuyama (so-called "Kinshōzan") in Nōshū [=Mino Prov.] donated from UNKON-DŌ [=TANI Rikurō, or ZOKUSEKI-TEI, a famous stone collector] of the same prov. This specimen is from the Permian Akasaka Limestone.

図版 12. 『閑窓録』(二十二丁裏~二十四丁表).

上図右(二十二丁裏):「貝」化石の図版. 上図の志度[讃岐国]の舜民によるウニ類化石は Echinarachnius sp. に同定でき,産出層は更新統田川層である. 下図の玉ヶ渕[讃岐国小海村] 光右衛門による産所不詳の二枚貝類は同定できない.

- 上図左(二十三丁表):貝化石の図版.上図の江都[=江戸,武蔵国]の山本氏による伊豆国産の標本は合弁の二枚貝類の内型で,おそらく鮮新統白浜層群産のものと推定される.下図の信州産の標本も二枚貝類であるが,こちらの標本も同定困難である.
- 下図右(二十三丁裏):貝化石の図版.上図は尾州[=尾張国]の枩響堂による濃州[=美濃国]山内村産の「海中セイト云ルモノ」の化石標本である.この標本は生痕化石 Teredolites sp. に同定され,産出層は中新統瑞浪層群であると推定できる(糸魚川・赤木,1978).尚,「セイ」とは節足動物門顎脚綱蔓脚亜綱のカメノテ類やエボシガイ類を指す(山下,1995).下図は好清菴[好晴庵]による羽州[=出羽国]産の二枚貝類であるが,同定は困難である.
- 下図左(二十四丁表):玉潾[玉潾正邃]による竹画.

Plate 12. "Kansō-Roku" (fo. 22B-fo. 24F).

- UR (fo. 22B): Plate of fossil "shells". Upper: A fossil sea urchin from Imizu-gun, Etchū Prov., donated from Shunmin [=WAKITA Gengo] of Shido [in Sanuki Prov.]. This specimen can be identified as *Echinarachnius* sp. and is considered to be from the Pleistocene Tagawa Formation in the Imizu County, Etchū Prov. Shunmin was a famous potter and a nephew of HIRAGA Gennai (1728–1780), a distinguished scholor and scientist in the Yedo Period. Lower: A fossil shell of which locality is unknown, donated from Mitsuyemon in Tamagafuchi [in O'umi-mura, Sanuki Prov.]
- **UL** (fo. 23F): Upper: A fossil shell from Izu Prov. donated from Mr. YAMAMOTO in Kōto [=Yedo in Musashi Prov.], with remarks "Colour is white; smooth". Lower: A fossil bivalve from Shinshū [=Shinano Prov.], with remarks "Inner part is deep-black; stone is hard; shell material is soft and is easily chipped".
- LR (fo. 23B): Upper: Fossil "shells" from Yamauchi-mura, Nōshū [=Mino Prov.] donated from SHŌKYŌ-DŌ in Bishū [=Owari Prov.]. This specimen has remarks "This is probably a fossil of a thing so-called "Kaichū-Sei"; resembling crowded earthworms; color is like an agate". This is the ichnofossil Teredolites isp., as pointed out by Itoigawa and Akagi (1978). This specimen was occurred from the Miocene Mizunami Group. A "Sei" refers to goose barnacles in the old Japanese and a dialect. Lower: A fossil bivalve from Ushū [=Dewa Prov.] donated from KŌSEI-AN [=TAKEUCHI Saroku or TAKEUCHI Arimitsu; both persons are Kanpo's senior brothers].
- LL (fo. 24F): Illustration of bamboos by GYOKURIN [=GYOKURIN Seisai, an artist-monk of Ōmi Prov.].

図版 13. 『閑窓録』(二十四丁裏~二十六丁表).

- 上図右(二十四丁裏):彦萬中徴規(?)の漢詩「夏晩竹飲」と伏見[山城国]の哥媒[菊下庵歌蝶]の俳諧.
- 上図左(二十五丁表): 貝化石の図版. 上図の「鴻峯産六品の内」の二枚貝類は鮮新統〜更新統唐ノ浜層群産の標本で, Paphia (Paphia) schnelliana (Dunker, 1877) スダレガイに同定される. 下図は同層産のタマガイ類であるが臍板の特徴が不明であるため, 属位については決定できない.
- 下図右(二十五丁裏): 貝化石の図版. 上図の徳嶌[阿波国]の岡田氏による産所不詳の「鏡貝化石」は同定困難である. 下図は尾州[=尾張国]の[松鳳堂]景山による美濃国の金生山産の化石で、ペルム系赤坂石灰岩産の二枚貝化石の断面である.
- 下図左(二十六丁表):貝化石の図版.上図の「江州貝石」は京都粟田御殿[=青蓮院門跡]所蔵の鮮新統 ~ 更新統産古琵琶湖層群産の Sinanodonta sp. である.下図の山地氏による土州[=土佐国]産の貝化石は鮮新統~更新統唐ノ浜層群産の Tugurium exutum (Reeve, 1842) キヌガサガイである.

Plate 13. "Kansō-Roku" (fo. 24B-fo. 26F).

- **UR** (fo. 24B): *Kanshi* by "HIKO Manchū Akinori" (?) (right and middle) and *haikai* by Kachō [KIKKA-AN Kachō] (left).
- UL (fo. 25F): "One of six rarities from Kōnomine", Doshū [=Tosa Prov.]. Upper: A fossil bivalve with remarks "Shell is light brown in colour; stone is black; ribs are high; with a luster". This specimen can be identified as *Paphia* (*Paphia*) schnelliana (Dunker, 1877). Lower: A fossil naticid. These specimens were from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group.

- **LR** (fo. 25B): Upper: A *Kagami-gai* fossil, of which precise locality is unknown, donated from Mr. OKADA of Tokushima [in Awa Prov.]. Lower: A fossil shell from Kanabuyama in Mino Prov. donated from SHŌHŌ-DŌ Keizan. This specimen is a cross section of a bivalve, and was from the Permian Akasaka Limestone.
- LL (fo. 26F): Upper: "Shell-stone from Gōshū" [=Ōmi Prov.] in the collection of Awata-Goten [=Shōren'in-monzeki Temple] in Kyōto [in Yamashiro Prov.]. This specimen can be identified as *Sinanodonta* sp., and is from Pliocene–Pleistocene Kobiwako Group. Lower: Fossil shell from Doshū [=Tosa Prov.] donated from Mr. YAMAJI. This specimen can be identified as *Tugurium exutum* (Reeve, 1842), and considered to be from the Pliocene–Pleistocene Tōhohama Group.

図版 14. 『閑窓録』(二十六丁裏~二十八丁表).

- 上図右(二十六丁裏): 貝化石の図版. 上図の城州[=山城国]の神原氏による鮎川[近江国]産の標本は Nipponomarcia nakamurai (Ikebe, 1941) ナカムラスダレハマグリに同定され, 産出層は中新統鮎川層群 と推定される(糸魚川・赤木, 1978). 下図の「金生山鬘貝化石」は赤坂石灰岩産の Bellerophon sp. に同 定されている(糸魚川・赤木, 1978).
- 上図左(二十七丁表): 貝化石の図版. 上図の産所不詳の腹足類は同定不可である. 下図の伊勢国の畑氏による勢州[=伊勢国]柳谷産の標本は中新統一志層群産の二枚貝類である.
- 下図右(二十七丁裏): 貝化石の図版. 上図の「産所不詳」の標本はおそらく *Pholadomya* sp. に同定される. 下図の豊後国府内の光西寺所蔵の同国球珠郡産の腹足類は同定困難である.
- 下図左(二十八丁表):武陵[=井手武陵]の詞書と和歌および,勢州[=伊勢国]の梅雄,マツ本[信濃国松本]の阿彦[上松阿彦],アカシ[播磨国明石]の雪哉[森田雪哉]の俳諧.

Plate 14. "Kansō-Roku" (fo. 26B-fo. 18F).

- UR (fo. 26B): Plate of fossil shells. Upper: A fossil bivalve from Ayukawa (or Aiga)[in Ōmi Prov.], donated from Mr. KAMIHARA of Jōshū [=Yamashiro Prov.]. This specimen was identified as *Nipponomarcia nakamurai* (Ikebe, 1941) by Itoigawa and Akagi (1978). It is from the Miocene Ayukawa Group. Lower: A "Katsura-gai fossil from Kanabuyama". It has remarks "Gray; the stone is very hard; a broken portion is lustrous". Itoigawa and Akagi (1978) identified it as Bellerophon sp. This specimen is from the Permian Akasaka Limestone.
- **UL** (fo. 27F): Plate of fossil shells. Upper: A gastropod fossil of which locality is unknown. It has remarks "The stone is hard; its sculpture is distinct". Lower: A bivalve fossil from Yanagidani in Seishū [=Ise Prov.] donated from Mr. HATA of the same province. It is from the Miocene Ichishi Group.
- **LR** (fo. 27B): Plate of fossil shells. Upper: A bivalve fossil of which locality is unknown. It has remarks "The shell is nuts brown; grooves are deep; the stone is hard". It is probably a *Pholadomya*. Lower: A gastropod fossil from Kusu-gun in the Bungo Prov., in the collection of Kōsaiji Temple in Funai in the same province.
- **LL** (fo. 28F): *Waka* with *kotobagaki* and *haikais*. Right: A *waka* with *kotobagaki* written by Buryō. Left: *Haikais* by Baiyū of Seishū [=Ise Prov.], Ahiko [=UEMATSU Ahiko] of Matsumoto [in Shinano Prov.] and Sessai [MORITA Sessai] of Akashi [sic; correctly of Itami in Settsu Prov.].

図版 15. 『閑窓録』(二十八丁裏~三十丁表).

- 上図右(二十八丁裏):貝化石の図版.上図の尾州[=尾張国]の玉泉による同国柳並村[柿並村の誤り]産の二枚貝類標本は Ostrea denselamellosa Lischke, 1869 イタボガキの右殻で、おそらく更新統野間層産のものであろう.下図の濃州[美濃国]岩村産の二枚貝類は Solen sp. に同定され、中新統瑞浪層群産のものであると推定される.
- 上図左(二十九丁表): 貝化石の図版. 下図の廣瀬氏[廣瀬如橘]採集の讃州[讃岐国]小海川産の標本は、アンモノイド類 *Pachydiscus* sp. に同定され、白亜系和泉層群から産したものであると推定される.
- 下図右(二十九丁裏):貝化石の図版.上図の水野氏による「尾州ダチ邑産」の標本はおそらく十脚類の化 石であろう.下図の仁池産の標本には小型の二枚貝類が見られるが,同定は困難である.

下図左(三十丁表):禅画. 二人の隠居または僧が貝石を眺めている. 作者不明.

Plate 15. "Kansō-Roku" (fo. 28B-fo. 30F).

- UR (fo. 28B): Plate of fossil shells donated from Gyokusen of Bishū [=Owari Prov.]. Upper: A fossil bivalve from Yana-ginami-mura [correctly Kakinami-mura] in Bishū [=Owari Prov.]. It is identified as a right valve of Ostrea denselamellosa Lischke, 1869, and is probably from the Pleistocene Noma Formation. Lower: A fossil bivalve from Iwamura in Noshū [=Mino Prov.]. It is identified as Solen sp. and is considered to be from the Miocene Mizunami Group.
- **UL** (fo. 29F): Plate of fossil shells. Upper: A *Sudare-gai* fossil, of which locality is unknown. Lower: A fossil shell from O'umi-gawa River in Sanshū [=Sanuki Prov.] donated from Mr. HIROSE. It has remarks "Stone is hard; containing iron; it resembles a body of a shrimp". This specimen can be identified as an ammonoid *Pachydiscus* sp. and is considered to be from the Cretaceous Izumi Group.
- **LR** (fo. 29B): Upper: A fossil "shell" from Dachi-mura in Bishū [=Owari Prov.] donated from Mr. MIZUNO [=MIZUNO Hakuō]. It is probably a decapod. Lower: Fossil shells from Niike [in Marugame in Sanuki Prov.]. They have remarks "Although the stone is soft, shells are distinct". Its collector and locality are not noted.
- **LL** (fo. 30F): A *zenga*. Two men (probably retired men called "*Inkyo*" or old bonzes) are watching fossil shells. Its creator is not noted.

図版 16. 『閑窓録』(三十丁裏~三十二丁表).

上図右(三十丁裏):空阿佛の俳諧・書. 翻刻:「根元から/竹を見上て/すゝみ哉」.

- 上図左(三十一丁表): 貝化石の図版. 上図の皇都[=京都]大原氏による信州産の二枚貝類はおそらく Mya (Mya) cuneiformis (Böhm, 1916) クサビガタオオノガイに同定される. 下図の尾州[=尾張国]の水野 白鴎による月吉産の標本は中新統瑞浪層群産のもので, 2 標本のうち, 二枚貝類は Hiatula minoensis (Yokoyama, 1926) ミノイソシジミに同定できる. 下図は腹足類であるが, 同定困難である.
- 下図右(三十一丁裏): 貝化石の図版. 上図は志度[讃岐国]の舜民による奥州[=陸奥国]白川産の二枚 貝類. 下図は讃岐国の引田城山の二枚貝類の破片で,産出層は白亜系和泉層群である.
- 下図左(三十二丁表):「折から文通の句」. 詠み人は浪花[摂津国]の露蝶[菊下庵露蝶], 雲州[=出雲国] の元日坊, 能登国の寒厓[井田寒涯], イセ[伊勢国]の秋雪である.

Plate 16. "Kansō-Roku" (fo. 30B-fo. 32F).

UR (fo. 30B): Calligraphy of *haikai* by Kūa-butsu.

- UL (fo. 31F): Plate of fossil shells. Upper: A fossil bivalve from Shinshū [=Shinano Prov.] donated from Mr. ŌHARA of Kōto [imperial city, or Kyōto in Yamashiro Prov.]. It is probably *Mya* (*Mya*) cuneiformis (Böhm, 1916) and was probably from a certain Miocene or Pliocene formation. Lower: Two fossil shells from Tsukiyoshi [in Mino Prov.] donated from MIZUNO Hakuō of Bishū [=Owari Prov.]. The upper-right specimen was identified as *Hiatula minoensis* (Yokoyama, 1926) by Itoigawa and Akagi (1978). This specimen has remarks "White-colored; with a yellowish luster". The lower-left specimen is an indeterminated gastropod. Both specimens are from the Miocene Mizunami Group.
- **LR** (fo. 31B): Plate of fossil shells. Upper: A fossil bivalve from Shirakawa, Ōshū [=Mutsu Prov.] donated from Shunmin of Shido [in Sanuki Prov.]. Lower: A fragmental fossil bivalve from Hiketa-Shiroyama [in Sanuki Prov.]. It has remarks "Stone is hard; shell form is deeply impressed".
- **LL** (fo. 32F): "Regularly exchanged *haikais*". Poetic authors: Rochō of Naniwa [in Settsu Prov.], Ganjitsu-bō of Unshū [=Izumo Prov.], Kangai [IDA Kangai] of Noto Prov. and Shūsetsu of Ise Prov.

図版 17. 『閑窓録』(三十二丁裏~三十四表).

上図右(三十二丁裏):竹画を添えた源三位具選[岩倉具選]の漢詩.

上図左(三十三丁表): 貝化石の図版. 上図の紀州長谷川氏による熊野産の腹足類はおそらく中新統熊野層群から産したものであろう. 下図の沙門 暁雲堂による下野国足尾産の二枚貝類は *Kaneharaia kaneharai* (Yokoyama, 1926) に同定でき, 産出層は中新統鹿又沢層であると推定される.

- 下図右(三十三丁裏):貝化石の図版.上図の長州[=長門国]の杦野氏による志摩国岩倉産の標本は同定困難である.下図の勢州[=伊勢国]産の「土殷孽貝石」はおそらく中新統一志層群産の腹足類であろう.尚,「土殷孽」は高師小僧を指す.
- 下図左(三十四丁表): 貝化石の図版. 上図の備中国の宮氏による同国産の標本は Monotis sp. に同定でき,産出層は三畳系成羽層群であると推定される. 下図の尾州[=尾張国]早川氏による標本は玉髄に置換されたタマガイ科腹足類の内型で,産出層は中部地方の中新統であろう.

Plate 17. "Kansō-Roku" (fo. 32B-fo. 34F).

- **UR** (fo. 32B): *Kanshi* by MINAMOTO-no-Tomokazu [IWAKURA Tomokazu] of the Junior Third Rank, with an illustration of bamboos.
- UL (fo. 33F): Plates of fossil shells. Upper: A fossil shell from Kumano [in Kii Prov.] donated from Mr. HASEGAWA of Kishū [=Kii Prov.]. Lower: A fossil bivalve from Ashio, Shimotsuke Prov. donated from GYŌUN-DŌ of Shamon. This specimen can be identified as *Kaneharaia kaneharai* (Yokoyama, 1926).
- **LR** (fo. 33B): Upper: A fossil shell from Iwakura, Shima Prov. donated from Mr. SUGINO of Chōshū [=Nagato Prov.]. It has remarks "Shell is white; stone is soft". Lower: A *Do-inketsu* (loess doll) fossil gastropods from Seishū [=Ise Prov.]. They have remarks "Yellowish; very strange".
- **LL** (fo. 34F): Plate of fossil shells. Upper: A fossil bivalve from Bitchū Prov. donated from Mr. MIYA of the same prov. This specimen can be identified as *Monotis* sp. Lower: A fossil gastropod donated from Mr. HAYAKAWA of Bishū [=Owari Prov.]. It has remarks "Shell is white; stone is hard; *i.e.* it is like a jade". Its locality is not noted.

図版 18. 『閑窓録』(三十四丁裏~三十六丁表).

- 上図右(三十四丁裏): 貝化石の図版. 上図はタマガイ類の内型, 下図の尾州[=尾張国]松響堂による月吉産の小型腹足類はおそらく *Phos* sp. と *Nassarius* sp. に同定できる. 付記から, いずれも中新統瑞浪層群産の方解石または玉髄に置換された標本であると推定される.
- 上図左(三十五丁表):貝化石の図版. 津本氏による勢州[=伊勢国]産の標本は二枚貝類 3 点, 腹足類 1 点を含んでいるが, いずれも同定は困難である. 産出層は中新統一志層群であると推定される. 下図の阿州[=阿波国]の腐石堂による紀州[=紀伊国]綱不知産の二枚貝類は Acila (Acila) sp. に同定でき, 産出層は中新統田辺層群であると推定される.
- 下図右(三十五丁裏):貝化石の図版.上図は三十五丁表下図と同じく阿州[=阿波国]の腐石堂による紀州[=紀伊国]綱不知産の標本で,産出層は中新統田辺層群であると推定される.下図は阿州[=阿波国]の土岐氏による越後産の二枚貝類で,マルスダレガイ類である.
- 下図左(三十六丁表): 六車謙得[謙篤]による漢詩と俳諧(三十六丁裏につづく). 俳諧の詠み人は京の 閑空とヤマト[大和国]の八日坊であるが、いずれの人物についても不明である.

Plate 18. "Kansō-Roku" (fo. 34B-fo. 36F).

- **UR** (fo. 34B): Plate of fossil shells. Upper: A fossil gastropod from Mino Prov. Lower: Small fossil gastropods from Tsukiyoshi donated from SHŌKYŌ-DŌ of Bishū [=Owari Prov.]. They have remarks "All specimens are white and clear; like jedes". These specimens are estimated to be from the Miocene Mizunami Group.
- **UL** (fo. 35F): Plate of fossil shells. Upper: Fossil shells from Seishū [=Ise Prov.]. They were probably from the Miocene Ichishi Group. Lower: A fossil bivalve from Tsunashirazu in Kishū [=Kii Prov.] donated by FUSEKI-DŌ of Ashū [=Awa Prov.]. It can be identified as *Acila* (*Acila*) sp. and is considered to be from the Miocene Tanabe Group.
- **LR** (fo. 35B): Plate of fossil shells. Upper: A fossil gastropod from Tsunashirazu donated by FUSEKI-DŌ. It is probably from the Miocene Tanabe Group also. Lower: A fossil bivalve from Echigo Prov. donated by Mr. TOKI of Ashū [=Awa Prov.]. It is a venerid, but can not be identified generically.
- **LL** (fo. 36F): *Kanshi* by MUGURUMA Kentoku (right) and *haikais* by Kankū of Kyō [=Kyōto of Yamashiro Prov.] and Yōka-bō of Yamato Prov. (left). *Haikais* are to be continued to fo. 36B (Plate 19, fig. UR).

図版 19. 『閑窓録』(三十六丁裏~三十八丁表).

- 上図右(三十六丁裏):俳諧(三十六丁表からのつづき)と児嶌至達による漢詩. 俳諧の詠み人はヤワタ [筑前国八幡]の古律,高松[讃岐国]の芳国,ナニワ[摂津国浪花]の百菓,イセ[伊勢国]の吟楽であるが,いずれの人物についても不明である.
- 上図左(三十七丁表):春岱による金谷[横井金谷]の画の写し. 上図の 2 つの二枚貝類はアカガイ類で, おそらく考古遺跡から出土した貝輪であると推定される. 下図は現生のイモガイ類であろう.
- 下図右(三十七丁裏): 貝化石の図版. 尾州の[松鳳堂]景山による勧進帳中の貝石の画の写し. 紡錘形の腹足類の画であるが, 同定は困難である.
- 下図左(三十八丁表): 貝化石の図版. 上左図は越中の笹倉自清による肥後国芦北産の「ウツセ貝化石」であるが, 同定および産出層の比定は困難である. 中央の「細浦産 鉄樹貝石」は砂管であろう. 尚, 鉄樹は Nipponoclava gigantea (Sowerby, 1888) ツツガキのことである.

Plate 19. "Kansō-Roku" (fo. 36B-38F).

- UR (fo. 36B): *Haikais* (continued from fo. 36F) and *kanshi*. Right and central: *Haikais* by Koritsu of Yawata [in Chikuzen Prov.], Hōkoku of Takamatsu [in Sanuki Prov.], Hyakka of Naniwa [in Settsu Prov.] and Ginshō of Ise Prov. Left: *Kanshi* by KOJIMA Shitatsu.
- UL (fo. 37F): Illustrations of shells copied by Shundai [=KOMIYAMA Tomoharu], which are originally drawn by Kinkoku [YOKOI Kinkoku]. Upper: Figures of shell bracelets made of an anadarin arcid bivalves probably derived from an archeological site. Lower: This is probably a figure of a extant conid gatropod. These figures have remarks "There are figures in an album; as they are related to fossil shells, I redraw them herein".
- **LR** (fo. 37B): A reproduction of an illustration of a fossil gastropod by Keizan [SHŌHŌ-DŌ Keizan] of Bishū [=Owari Prov.]. It has remarks "Although there is an illustration of a fossil shell in a *Kanjin-chō* [a temple sociliation book], its original stone has not been found".
- **LL** (fo. 38F): Plate of fossil shells. Upper-left: An *Utsuse-gai* fossil from Ashikita, Higo Prov., donated from SASAKURA Jisei of Etchū Prov. It is a naticoid gastropod. Central: A *Tetsuju* shell stone from Hosoura donated by TAKAHASHI Kihō. Although a *Tetsuju* refers to a bivalve *Nipponoclava gigantea* (Sowerby, 1888), this specimen is probably a sand pipe.

図版 20. 『閑窓録』(三十八丁裏~四十丁表).

- 上図右(三十八丁裏): 貝化石の図版. 上図の津田 安藝氏による産地不詳の標本は Clementia sp. に同定できる. 下図の志度寺所蔵の産地不詳の標本は腹足類であるが, 同定は困難である.
- 上図左(三十九丁表): 芦丸累, 京の真鳳, 吐鳥[=島 方淑]および大坂の大江丸[安井大江丸]による俳諧と児 紫芝[児島紫芝]による漢詩.
- 下図右(三十九丁裏):灌圃による詞と俳諧. 松の幹と枝葉の画が添えられている.
- 下図左(四十丁表): 貝化石の図版. 上図の橋本氏採集による讃州塩屋川産の標本は同定不可. 下図の「土州鴻峯産六品の内」の腹足類は鮮新統~更新統唐ノ浜層群産の標本で, Tonna sp. に同定される.

Plate 20. "Kansō-Roku" (fo. 38B-fo. 40F).

- **UR** (fo. 38B): Plate of fossil shells. Upper: A fossil bivalve donated from Mr. AKI of Tsuda [in Sanuki Prov.]. It can be identified as *Clementia vatheleti* Mabille, 1901, and is probably from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group. It has remarks "Dark-brown; the stone is very hard". Lower: A fossil gastropod in the collection of Shidoji Temple, of which locality is unknown. It has remarks "Black and lustrous".
- UL (fo. 39F): *Haikais* and *kanshi*. Right: *Haikais* written by Ashimaru-kasane [?], Shinpō of Kyō [=Kyōto, Yamashiro Prov.], Tochō [=SHIMA Hōshuku], and Ōemaru [=YASUI Masatane] of Ōsaka [in Settsu Prov.]. Left: *Kanshi* by KO Shishi [KOJIMA Shishi].
- **LR** (fo. 39B): Poem and *haikai* by Kanpo, with illustration of a pine tree in the right side.

LL (fo. 40F): Plate of fossil shells. Upper: A fossil shell from the Shioya-gawa River in Sanshū [=Sanuki Prov.], donated from Mr. HASHIMOTO. Lower: "One of six rarities from Kōnomine" [in Tosa Prov.], with remarks "The form is distinct, but the stone is soft". This specimen is from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group, and can be identified as *Tonna* sp.

図版 21. 『閑窓録』(四十丁裏~四十一丁裏)および奥付.

上図右(四十丁裏):貝化石の図版. いずれも江都[=江戸]の鈴木氏採取による産所不詳の標本. 下図は *Tugurium exutum* (Reeve, 1842) キヌガサガイの殻底観を描いたもので,産出層は鮮新〜更新統唐ノ浜 層群産であると推定される.

上図左(四十一丁表)~下図右(四十一丁裏):耕雲堂灌圃による自跋.

下図左: 奥付.

Plate 21. "Kansō-Roku" (fo. 40B-fo. 41B; imprint).

UR (fo. 40B): Plate of fossil shells donated from Mr. SUZUKI of Kōto [=Yedo in Musashi Prov.]; precise localities are not known for both specimens. Upper: A fossil shell (?) with remarks "The stone is very hard; black in color; a part of shell is exposed". Lower: A fossil specimen with remarks "The shell is white; its sculpture is distinct". This specimen can be identified as *Tugurium exutum* (Reeve, 1842), and is probably from the Pliocene–Pleistocene Tōnohama Group in the Tosa Prov.

UL (fo. 41F): Postscript by KŌUN-DŌ Kanpo (to be continued to fo. 41B).

LR (fo. 41B): Postscript by KŌUN-DŌ Kanpo (continued).

LL: Imprint of "Kansō-Roku". Translation: "Ichijō-Kudarumachi, Muromachi, Kyōto; Published by the Shorin Kissen-dō, HIRANOYA Zenbee".

図版 1 (Plate 1)

于禮于楽于劍于鎗或國鄉群林者或詩文或書画都的風走化優游藝苑劉王公大人至下學士大夫泰平之化日々行矣自上界平向二百国家実安然

閑 窓 録

獨樂不如與衆樂之意乎關外人國方同好之風出顧自不探之閱之其數多々不解的人人也不可以的對別。

図版 2 (Plate 2)

文化甲子

印建書

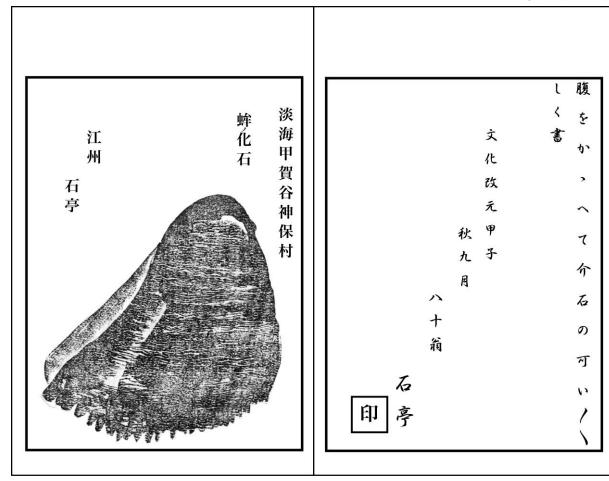
至

因述其言以為之序云々世事於足下而己予曰語,此乎素年長之為友問時,所以平素年長之為友問與何當其事固辞再三灌圃

高 興緒恥 走か 風 15 流八 る 催 子 倩 日純 5 何 お 筆 加 用 胡 ふ 云 Ż 4 文 可 + の 老 あ 忙 文 赦 藻 年 か投に す l

其セ見懐 感 す 諸 7 殼 1: 君 堪 宝 5 1: を 8 宝 to を 8 聴 1: 不 8 贈 投 む 不 景 闇 山 愚 醫 言 11 忘 才 鈍 開 卷 7 風石 才 0 可 は予書 * をふ流を

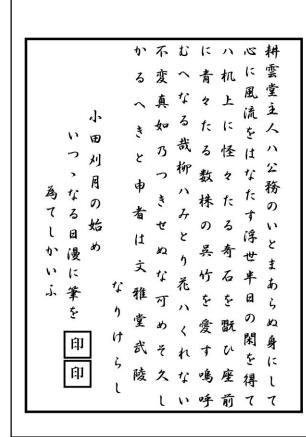
図版 3 (Plate 3)



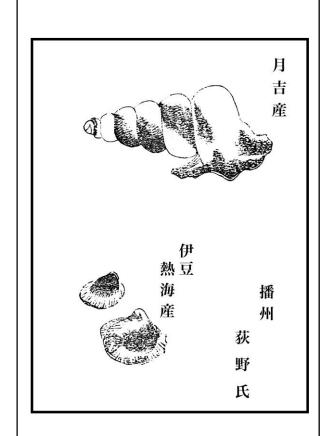


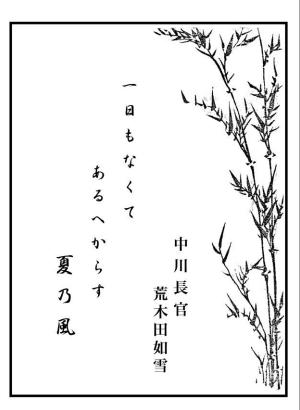


図版 4 (Plate 4)



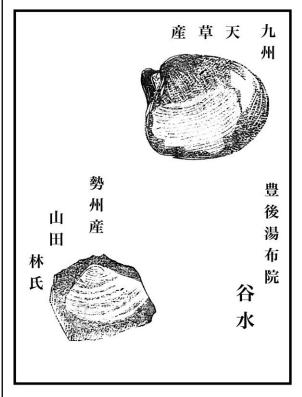




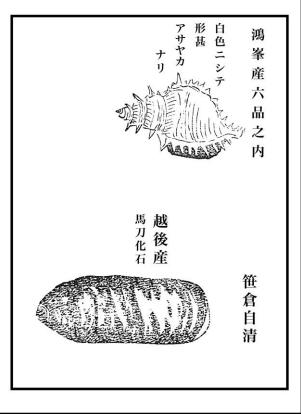


図版 5 (Plate 5)

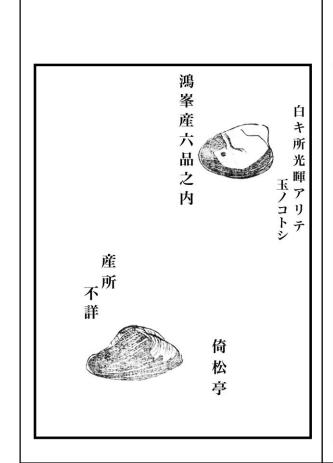






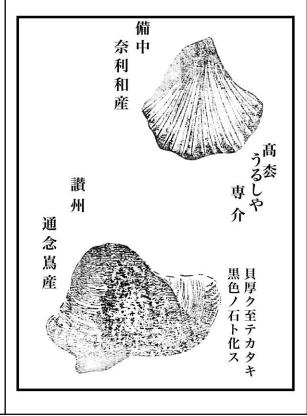


図版 6 (Plate 6)

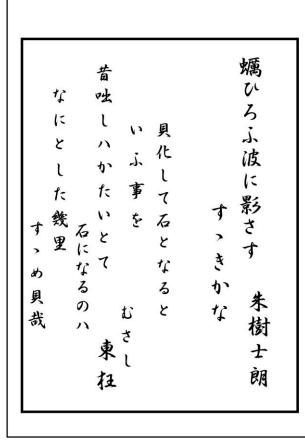


奇多 若 々少 竹 怪石 新濃 や 々峦 煙 愛在 ŧ 夜 日 天此 光 寒煖 工中 百千 日も 谷崖 野 月 風水 邨 活 人 敬太

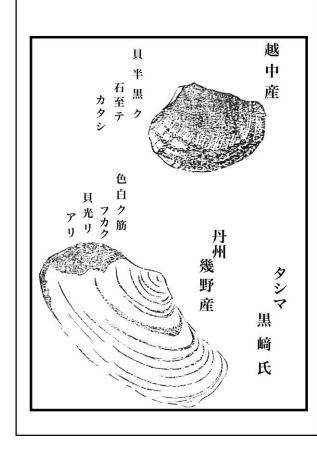




図版 7 (Plate 7)

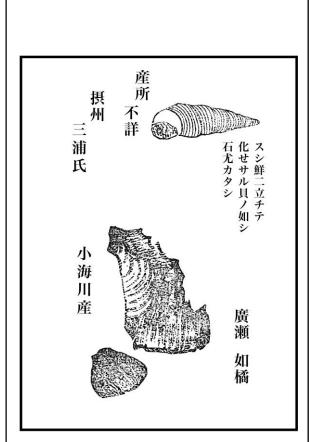


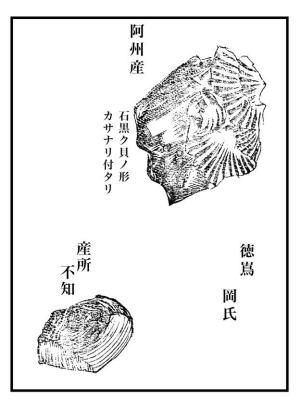


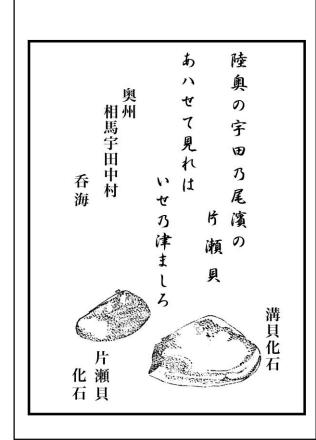


高 青 初 夏 凉 の 時 節 風 K 夜 雨 凌 や す 氷 林 8 わ * す 雪 竹 3 行 1 竹 7 此 颯 寝 3 君 々 あ t う 千 帯 9 7 歳 竹 0 風 l 七十 9 榮 聲 月 馬 伯 不 有 狐 章 菜 光 及

図版 8 (Plate 8)

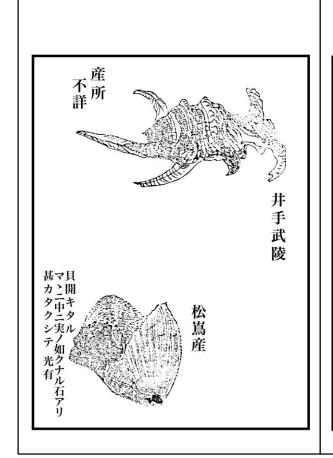




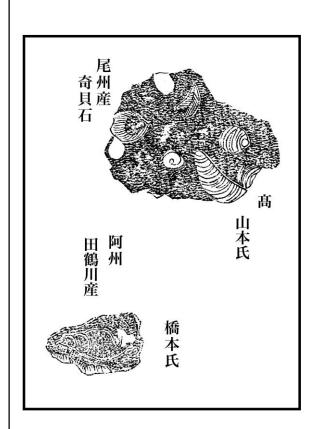


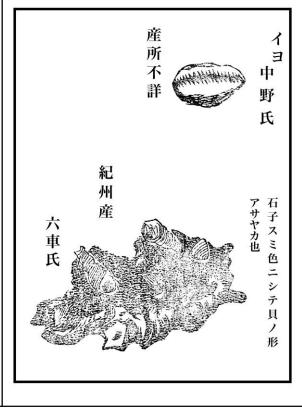


図版 9 (Plate 9)



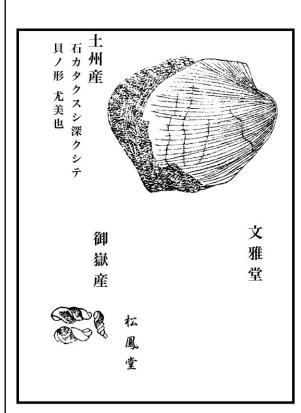
若 忘 未 雨 竹 L 整 餘 直 陵 新 と竹 12 竹 雪 る う 15 態 秀 露小 疎 啓 たる竹の の る夜明 枝 左 3 4 送 は 軽 月 寧 秋 題 光 香 武 雪 陵

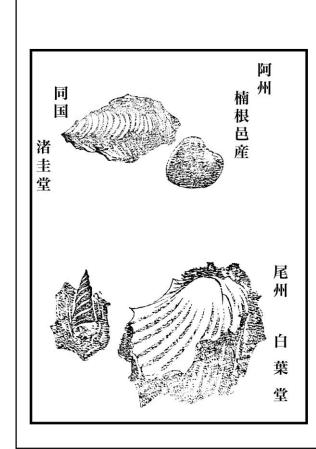




図版 10 (Plate 10)

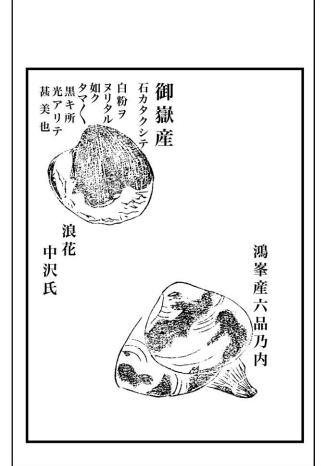








図版 11 (Plate 11)



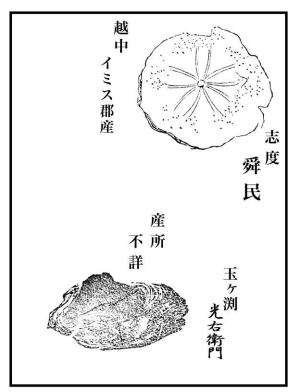
う 夜看 7 来石 め圃 る 葉詩 宿 ιι 友ぬ 聞竹 と色 7 5 5 3 乃兵が四位上 きら 石其 観 んは度



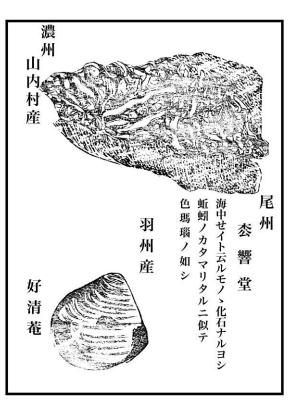


図版 12 (Plate 12)

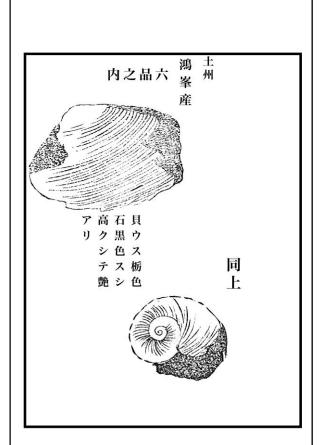






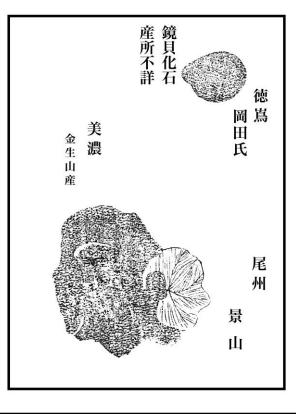


図版 13 (Plate 13)

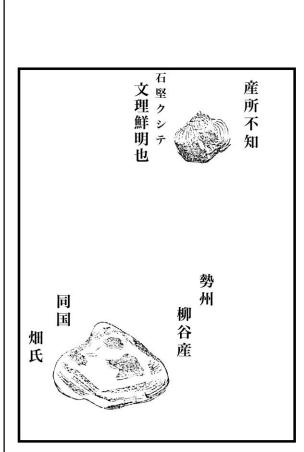


清月纔幽 初 秋 韻影逢 や 興節晚 夏 竹 夏 晚 斜 雨 竹 のふ 過 飲 3 中譲音爱 残 微晋戛夜到 規 五原绿 人頻軒筠



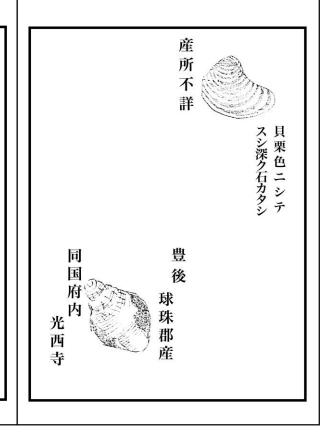


図版 14 (Plate 14)

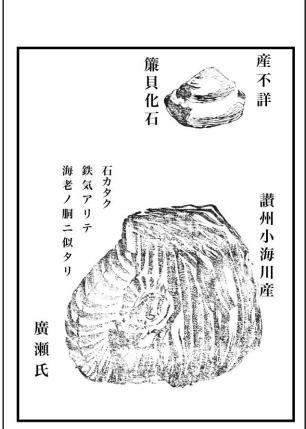


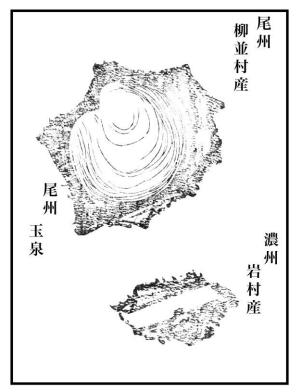


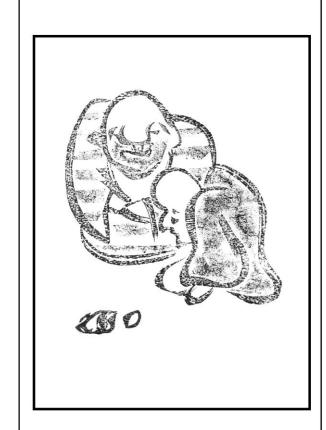
千代こ 楢 竹 凉 の 色そひ 子にらな さ て竹 ハ 11 何 7 ŧ ŧ お かっらす朝乃 雑 詠て V る祝 す 3 の る 8 而マット 阿本梅州 に 武 陵 雄 彦

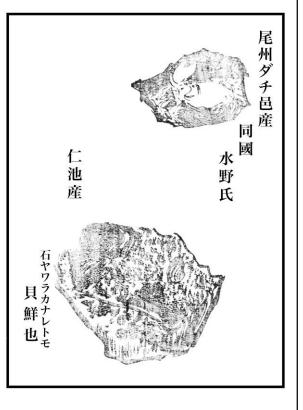


図版 15 (Plate 15)

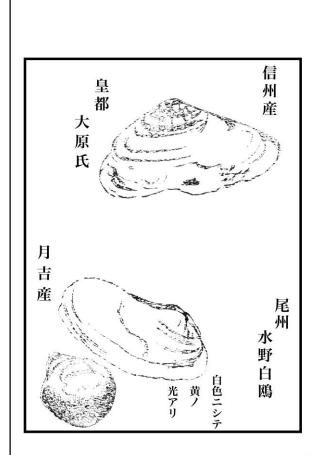


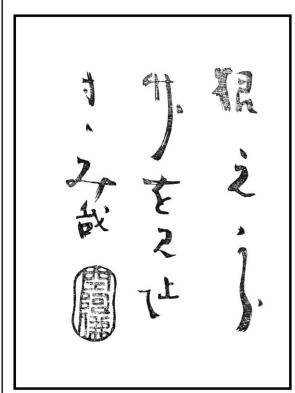




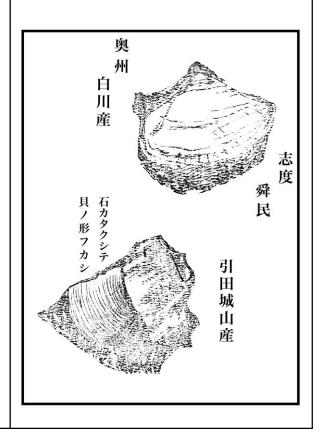


図版 16 (Plate 16)

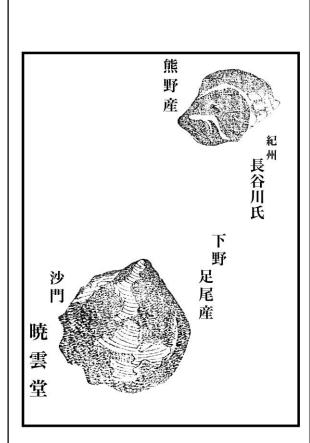




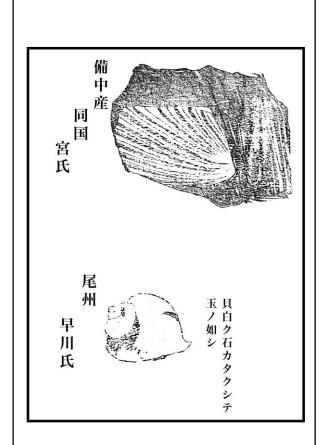
嚴 萩 あ Œ あ ふ 9 l n 水 程 水 7 に 11 う 皆草 折 か 更 t G 刔 に 9 7 文 1 如 H 通 今 l の 朝 秋 句 の 3 9 所 秋 腹 風 能 寒登 浪露 花 雲元州 H 蝶 雪 厓 坊

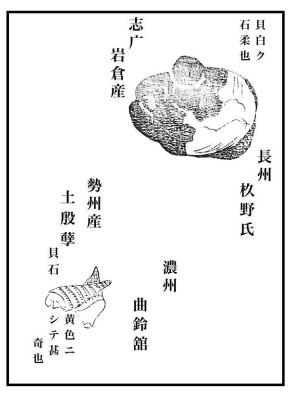


図版 17 (Plate 17)



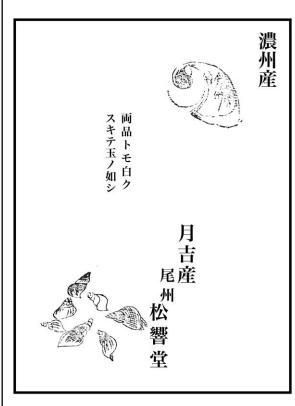






図版 18 (Plate 18)





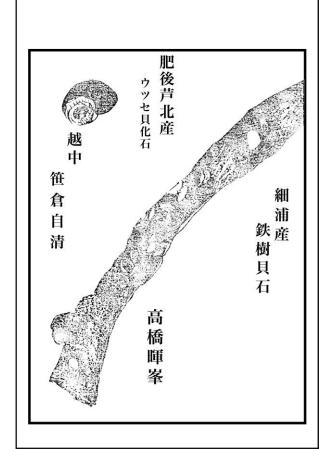
司班珠方 枩 風 然態图土 天花会生 程 地文浦奇 t 7 * 化密曲種 住 伽 而彩鏷献 る ゃ 六 待光虫酬 月 軒 夜 の 五條荊禹 謙 得 人理山貢 功通中国 空



図版 19 (Plate 19)

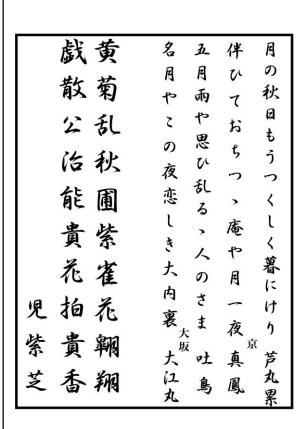


文箱 閉天 野 鰯 さ 庭女 1: もの神 幻 0 1, 裁支 はるやむかしと帰り花 秋 H 竹機 處石 しても見よ銀杏の葉 吟園の落葉を贈る ニィセ を る あ 11 知 め す 里 A 回 の 秋 ナ 高 ヤワ 百ヮ**芳** 古タ 風中 梥 菓 国 律





図版 20 (Plate 20)



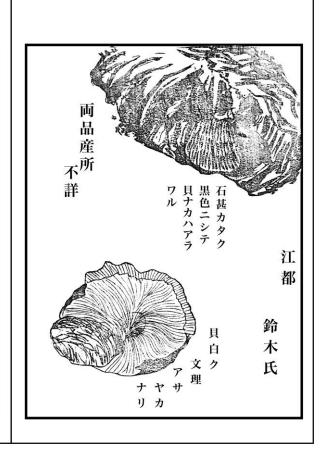






図版 21 (Plate 21)

投託 貝 1 箱 るをそへ n 近 冈 北 ŧ 7 14 筑 ナ 紫 窓 の



書林橘仙堂 平野屋善兵衛梓京都室町一條下ル町

加愛 H よ の妄念はら て竹石二爱 事忘可 月 回 利 21 耕 の か 回 巻とな t 比 くと 好 甫 め 印 る